

総合計画・都市マスタープラン勉強会

2014年6月21日(土)/6月22日(日)

本日の進め方

1. はじめに ・本日の流れ ・主催者あいさつ(市長)	14:00~14:10
2. 概要説明 『総合計画・都市マスタープランとは?』 『白井市の現状について』 ～質疑応答～	14:10~15:00
3. ワークショップ～討議の進め方の説明～	15:00~15:10
4. グループ討議(意見交換) 10年後の白井市の望ましい将来像を描こう ※テーマごとにグループに分かれて討議 ～休憩 10分～	15:10~16:10
5. グループ発表 & 全体共有	16:20~16:50
6. 今後の予定・閉会	16:50~17:00



総合計画と 都市マスタープランについて



はじめに

市は、行政運営に当たって、さまざまな計画を策定しています。

これは、行政運営の指針や目標を定め、目標を達成するために計画的・効率的に行政を運営していくためです。

市の計画の最上位計画として総合計画があり、そのほかの計画は、総合計画に連動・整合しながら策定しています。

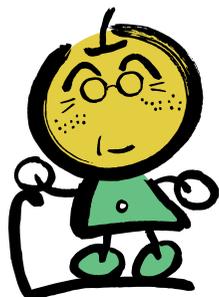


総合計画とは

総合計画は、将来、白井市をどのようなまちにしていくのか、そのためにどのようなことをしていくのかを、総合的・体系的にまとめたものです。



現行の「第4次総合計画」が平成27年度で終了するため、
白井市では、平成28年度からの10年間を見通した「第5次総合計画」の策定を進めています。



総合計画の構成と期間は

第5次総合計画

基本構想

H28～H37年度

前期基本計画

H28～H32年度

後期基本計画

H33～H37年度

実施計画

H28～H32年度

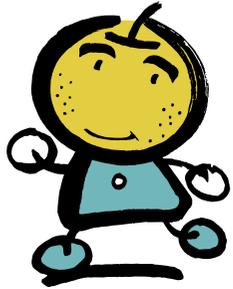
実施計画

H33～H37年度

市の将来像と、これを実現するためのまちづくりの目標を定めます

基本構想に掲げる市の将来像を実現するために、分野ごとに取り組むべき施策等を総合的・体系的に明らかにします

基本計画に掲げる施策を推進するために必要な事業を明らかにします



都市マスタープランとは

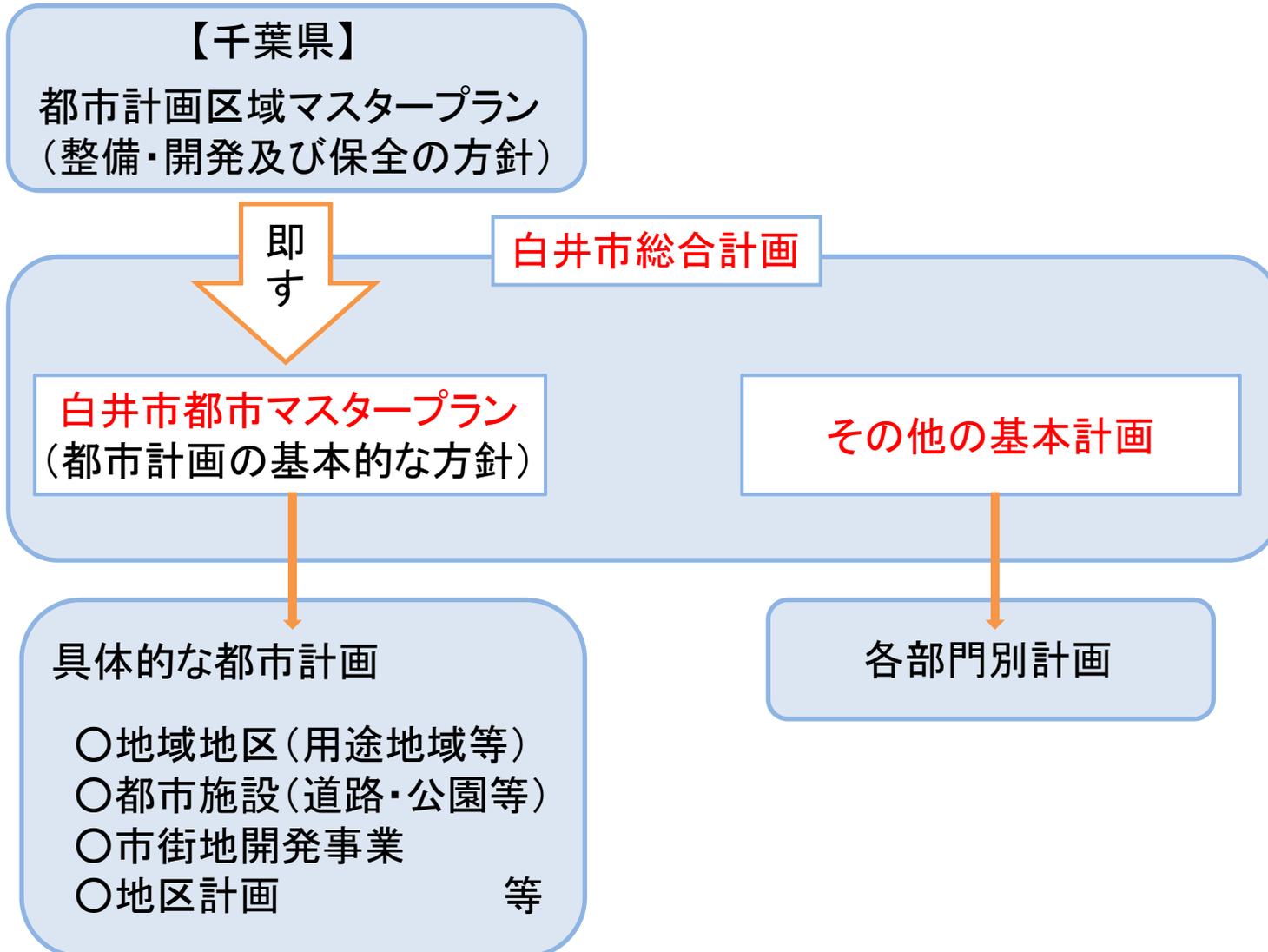
都市マスタープランは、都市計画法18条の2に基づき、白井市の都市計画に関する基本的な方針として、白井市が定めるものです。

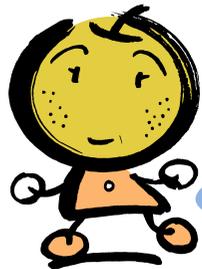


白井市のまちづくりにおいて、上位計画である千葉県策定の印西都市計画区域マスタープラン（都市計画区域の整備・開発・保全の方針）に即し、市の最上位計画である総合計画と整合し、目指すべき将来像をまちづくりの分野で実現するための基本計画が都市マスタープランです。



都市マスタープランの位置付け





策定に当たっては

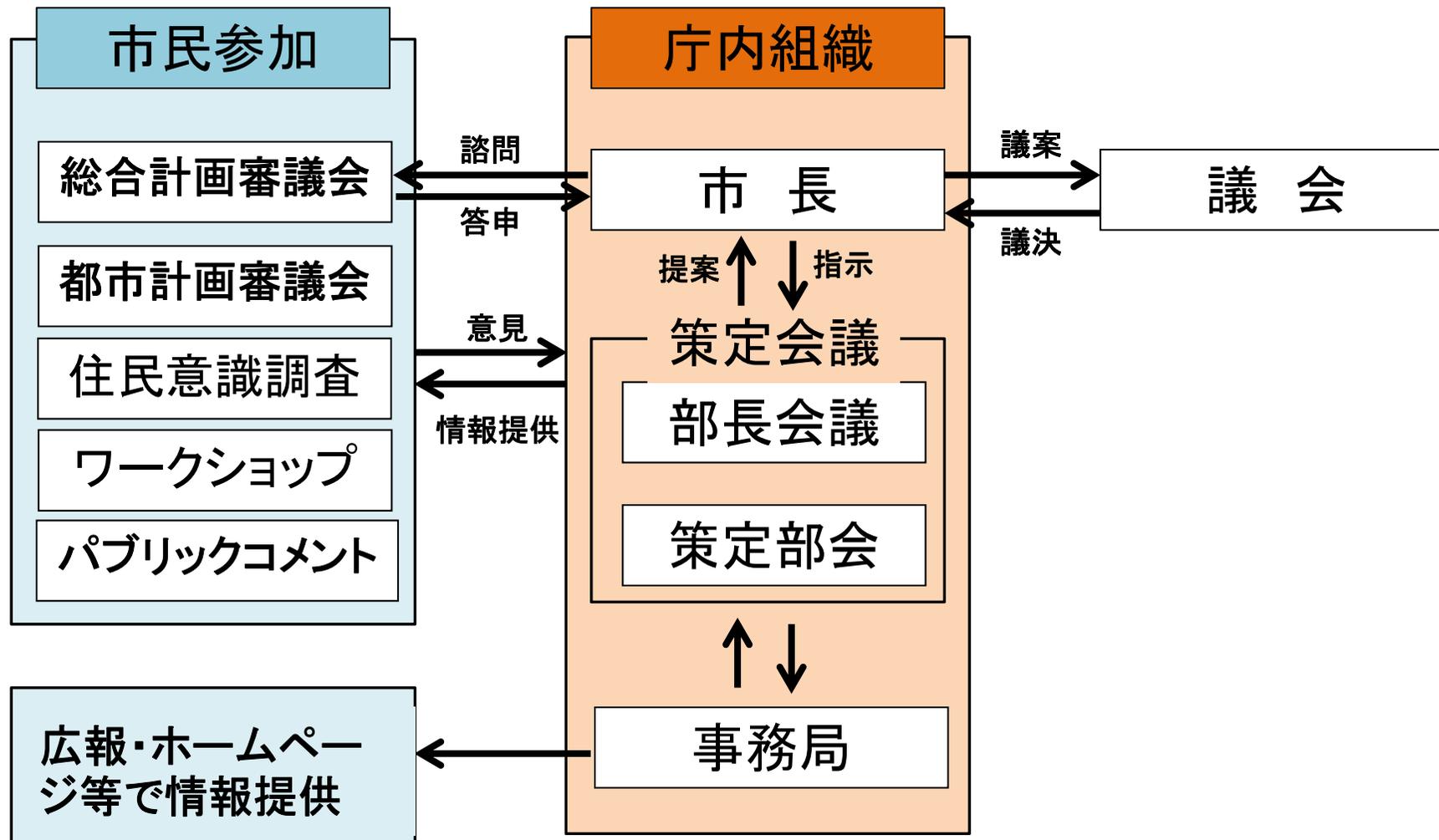
少子化・高齢化に対応した
持続可能な活力ある地域づくり

開かれた行政、市民参加・協働のまちづくり

身の丈にあった行財政運営



策定体制は



将来のまちづくりについて 市民の皆さんと一緒に考えます

住民意識調査

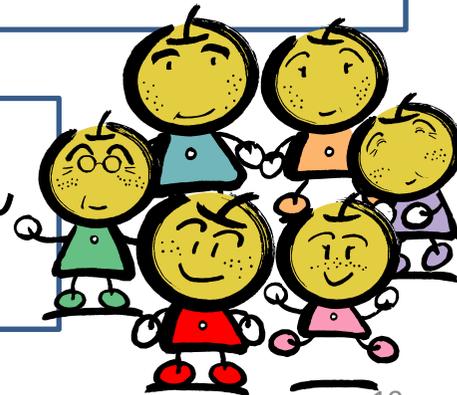
- ・5月に無作為抽出した市民の方へ住民意識調査を実施しました
- ・7月に小学生から高校生までの児童生徒にアンケートを実施します

ワークショップ

- ・7月に各センター等で意見交換会を実施します
- ・平成27年に9つの小学校区で分野別のワークショップを実施します

パブリックコメント

- ・基本構想や基本計画の素案に対する市民の皆さんのご意見をいただきます



●今年度(H26年度)は

本日、勉強会でのワークショップ

・「将来こうあったらいいな」⇒ **分野ごとの意見**
(健康、産業、子育て、環境、教育、都市、防災、学習等)

↓ **分野ごとの意見をヒントに**

7月、各センターでのワークショップ

・「将来こうあったらいいな」⇒ **地区全体としての意見**
市全体としての意見

↓ **基本構想(将来像、人口、土地利用、施策の方針等)へ反映**

「将来像」例:「〇〇〇で〇〇〇なまち しろい」や

将来像を実現するための**「理念」**や**「施策の大きな方針」**等を策定

●来年度(H27年度)は

5～6月頃、小学校区ごとのワークショップ

基本構想(ビジョン)の実現に向けて、
各分野毎に取り組むべき事項について議論



◇総合計画前期基本計画（各分野ごとの具体的施策）

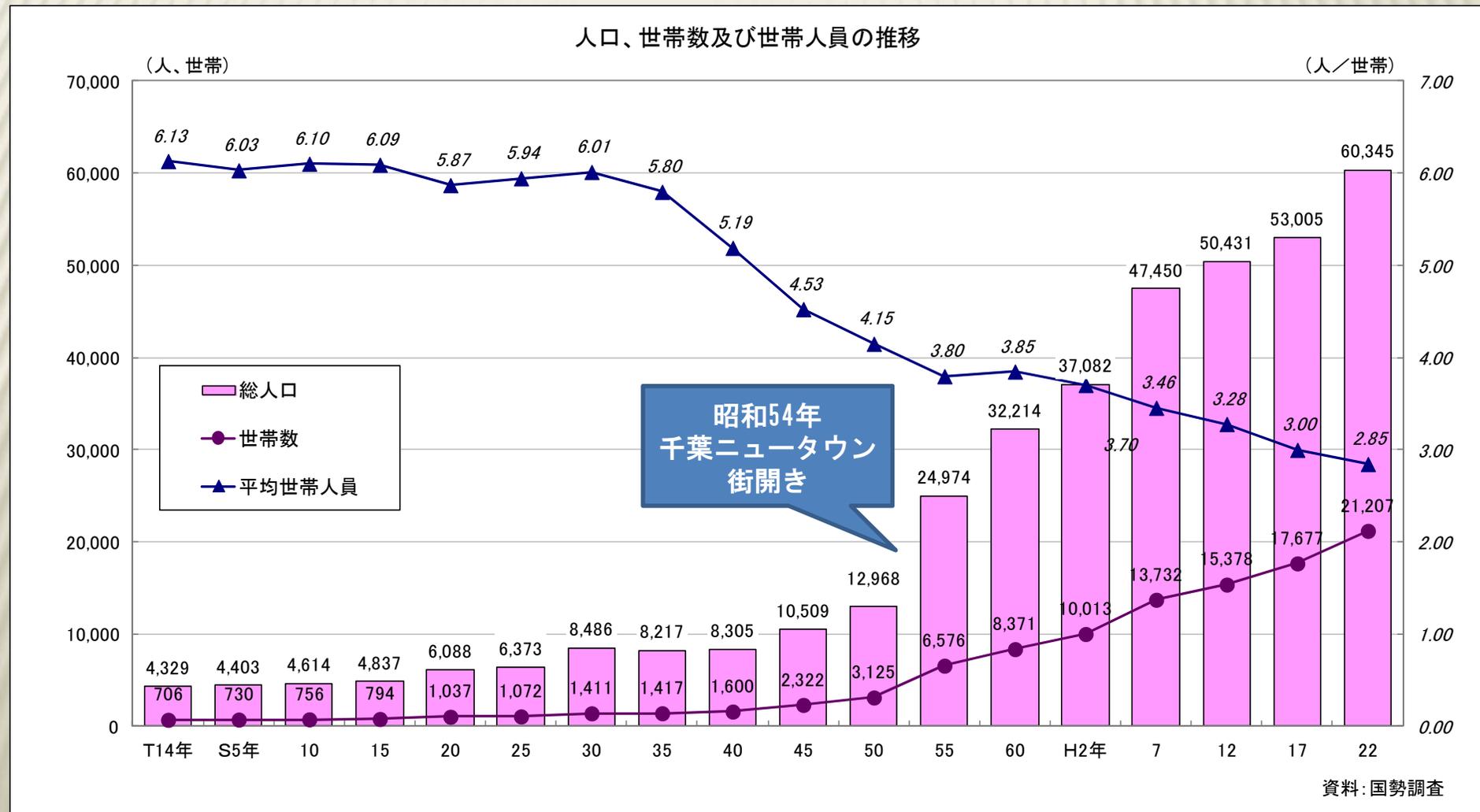
◇都市マスタープラン（地区ごとの土地利用の方針）

へ反映

白井市の現状について

1 人口・世帯 (1) 総人口・世帯

- 白井市の人口は昭和54年の千葉NT街開き以降に急増。
- 平成22年では人口約6万人、世帯数約2万1千世帯。



1 人口・世帯 (1) 総人口・世帯



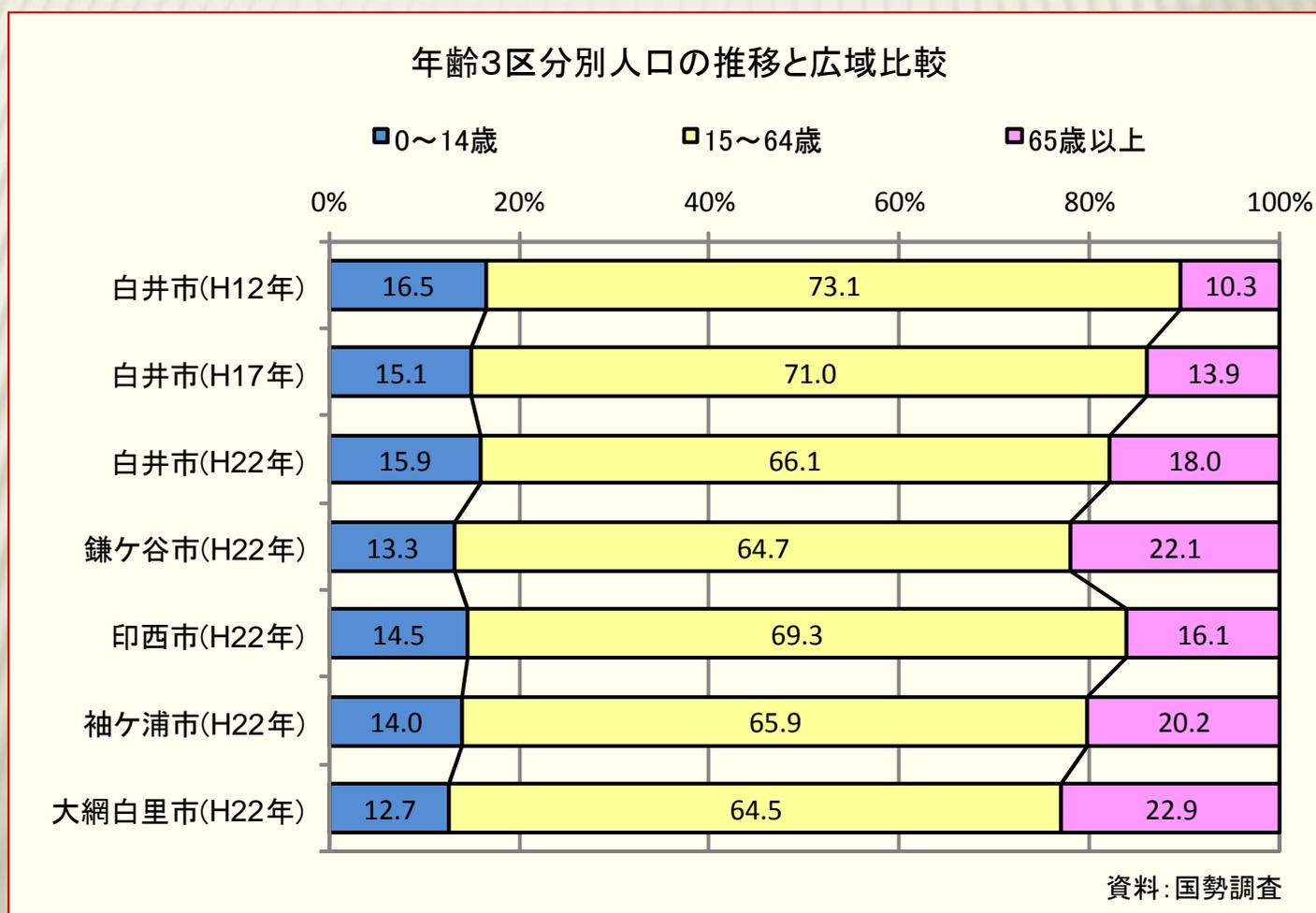
街開き当時の西白井駅北口

現在の西白井駅北口



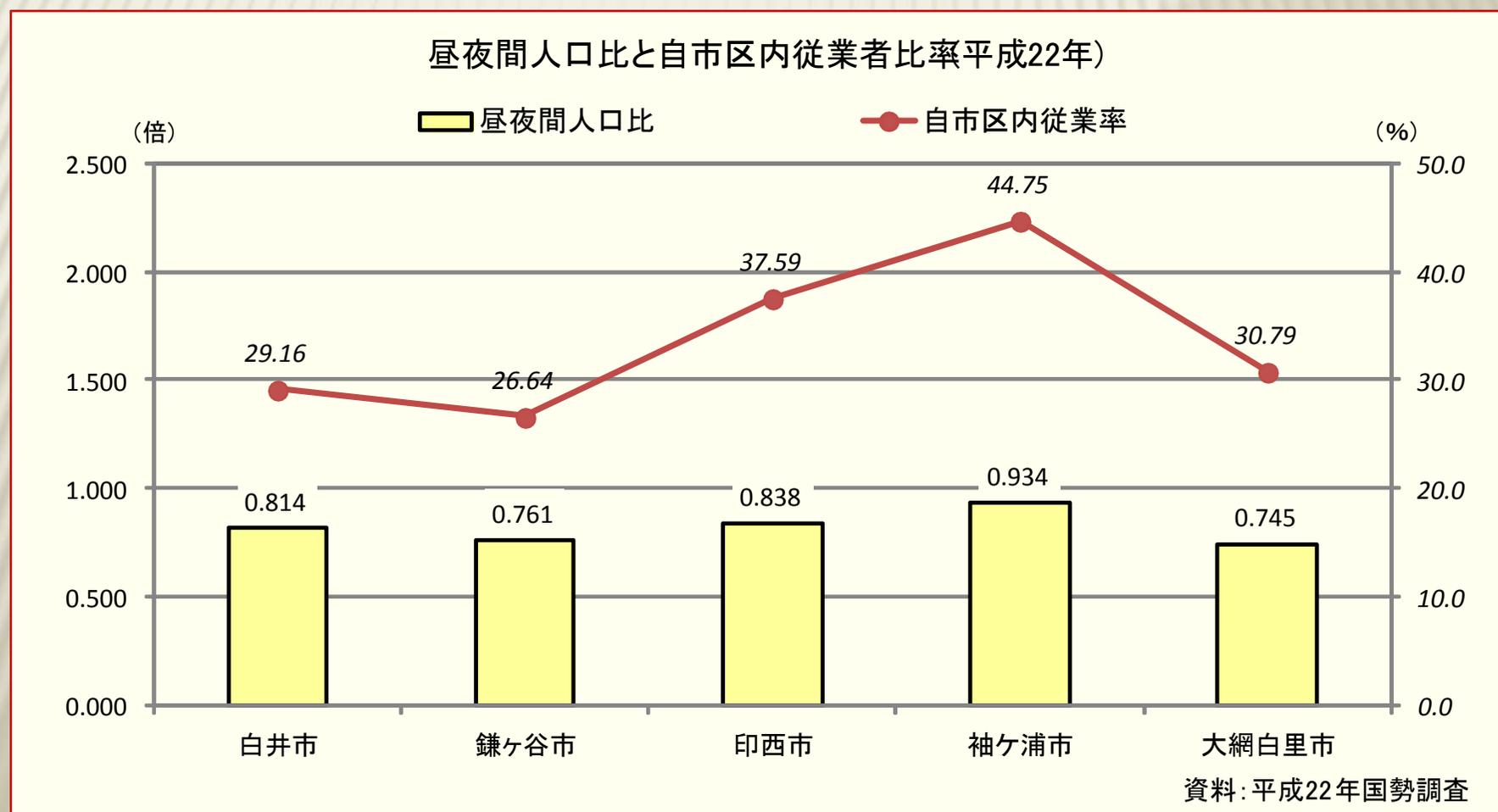
1 人口・世帯 (2) 年齢別人口の広域比較

- ファミリー層の転入が多く、0～14歳は増加傾向。
- 隣接市、類似市に比べても0～14歳の比率が高い。
- 高齢化率は上昇傾向にあるが、印西市に次いで低い水準。



1 人口・世帯 (3) 昼夜間人口比率の広域比較

- 昼間人口が夜間人口より少ないベッドタウンの色彩が強い。
- 市内で働く人は約3割で、鎌ヶ谷市に次いで少ない。



1 人口・世帯 (4) 転入者・転出者比率

- 平成17～22年で人口の約20%が入れ替わり。
- 転出は印西市や船橋市、転入は船橋市や鎌ヶ谷市が多い

い) H17-22年での転出者の転出先

	実数 (人)	構成比 (%)
5年前の常住者	52,308	100.0
現住所	42,562	81.4
自市町村内で移動	3,733	7.1
転出	6,013	11.5
県内他市区町村へ	3,304	54.9
印西市	640	10.6
船橋市	618	10.3
鎌ヶ谷市	494	8.2
松戸市	291	4.8
柏市	268	4.5
その他	993	16.5
他県へ	2,709	45.1
埼玉県	257	4.3
東京都	916	15.2
特別区部	728	12.1
神奈川県	329	5.5
その他の県	1,207	20.1

資料:平成22年国勢調査

H17-22年での転入者の転入先

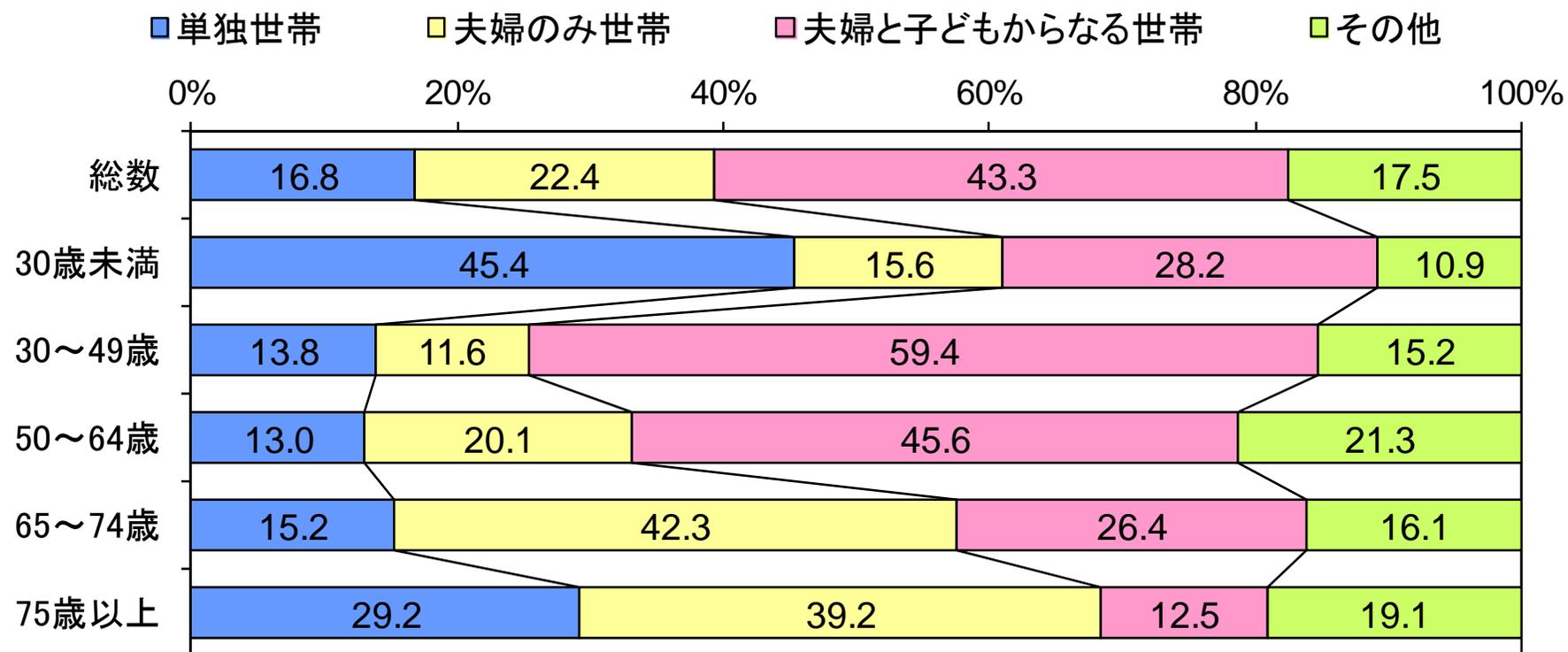
	実数 (人)	構成比 (%)
常住者	60,345	100.0
現住所	42,562	70.5
自市町村内で移動	3,733	6.2
転入	12,278	20.3
県内他市区町村から	7,307	59.5
船橋市	1,633	13.3
鎌ヶ谷市	1,172	9.5
松戸市	991	8.1
柏市	602	4.9
印西市	568	4.6
その他	2,341	19.1
他県から	4,654	37.9
埼玉県	526	4.3
東京都	1,776	14.5
特別区部	1,482	12.1
神奈川県	562	4.6
その他の県	1,790	14.6

資料:平成22年国勢調査

1 人口・世帯 (5) 世帯の状況

- 夫婦と子どもからなる世帯が4割強を占める。
- 単独世帯は30歳未満で4割強、75歳以上で3割弱を占める。

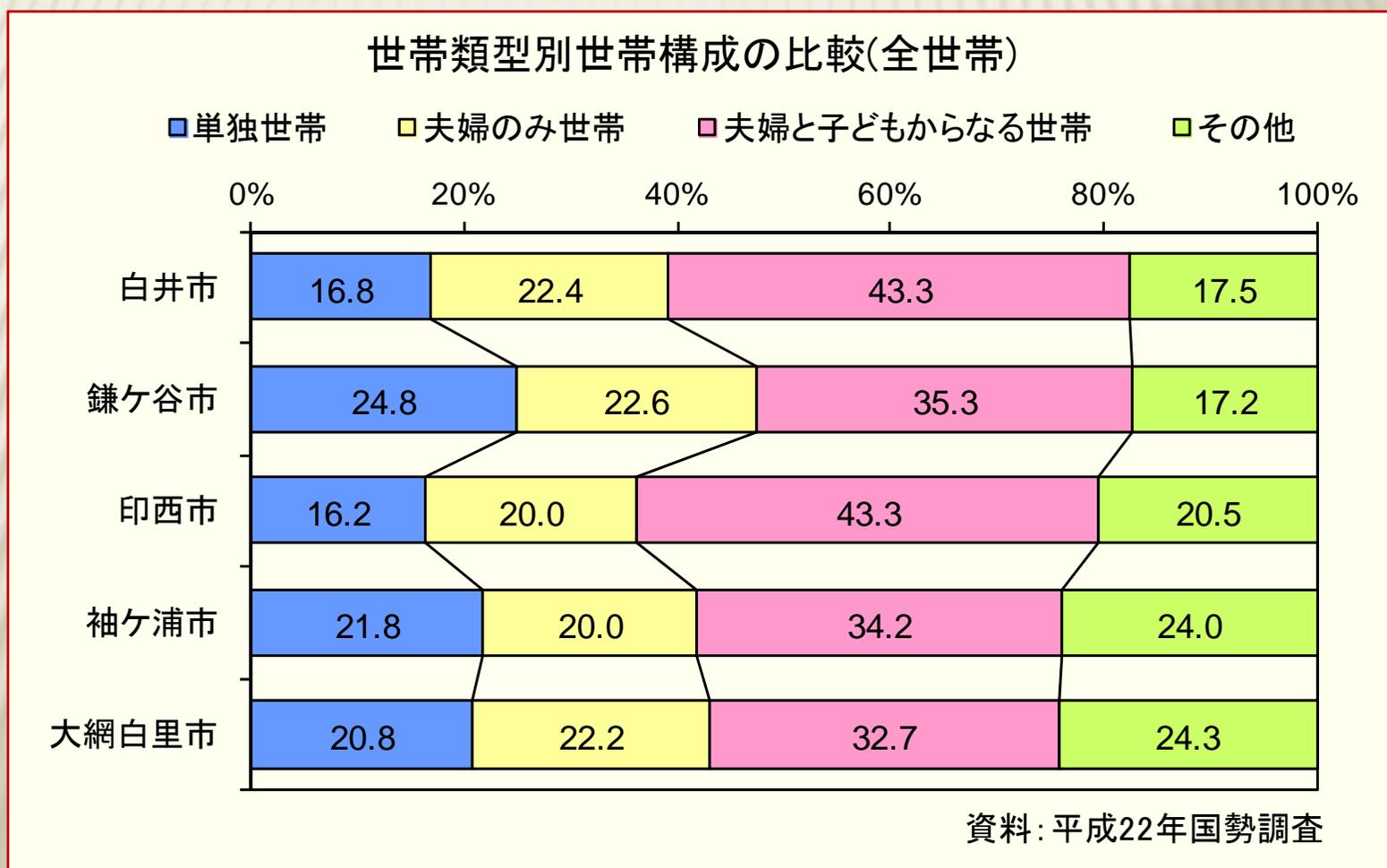
家族類型別世帯構成(白井市)



資料:平成22年国勢調査

1 人口・世帯 (6) 世帯構成の広域比較

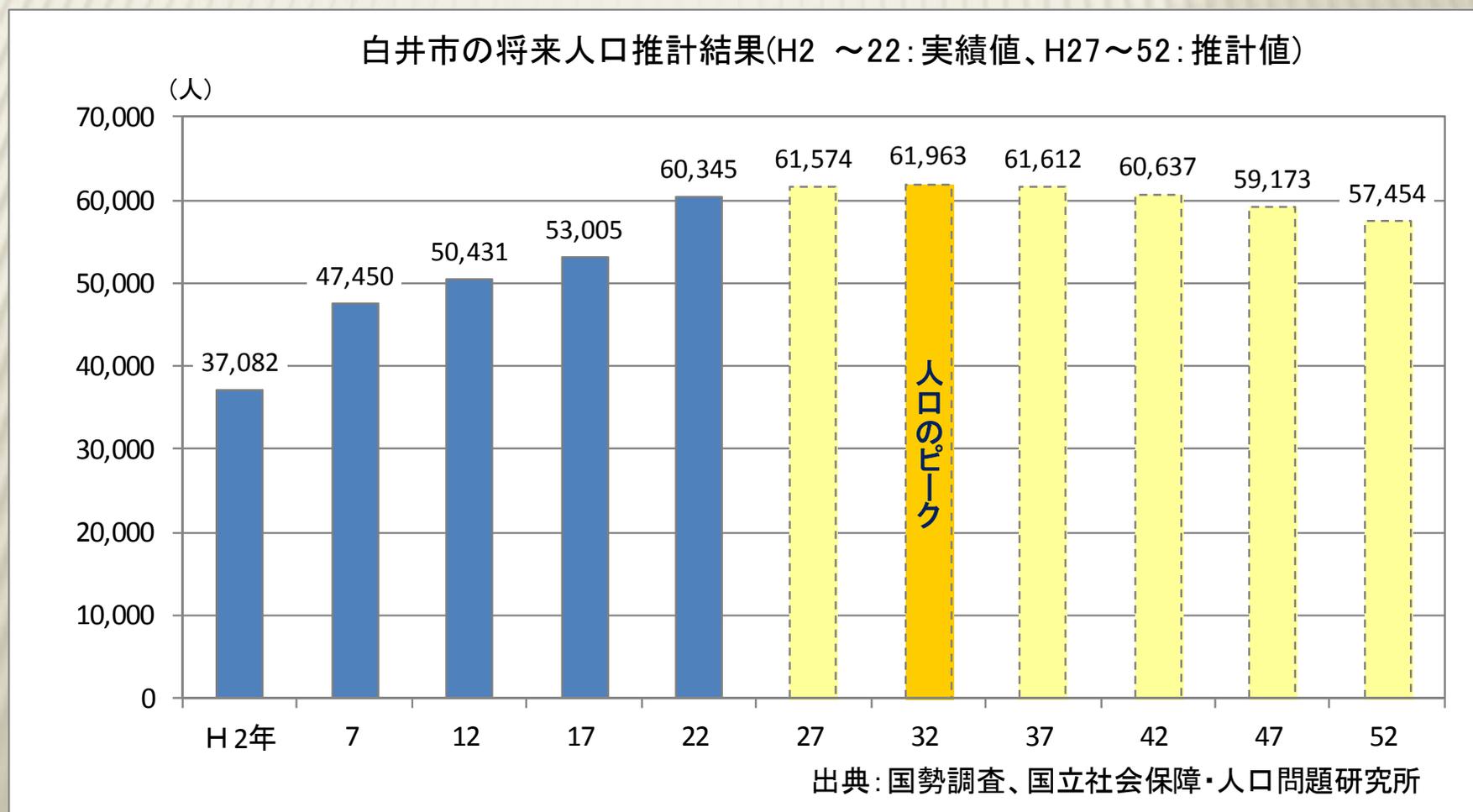
- 近隣市、類似市と比較すると、白井市は印西市に似た世帯構成となっており、単独世帯の比率が低く、夫婦と子どもからなる世帯の比率が高い。



1 人口・世帯 (7) 将来人口

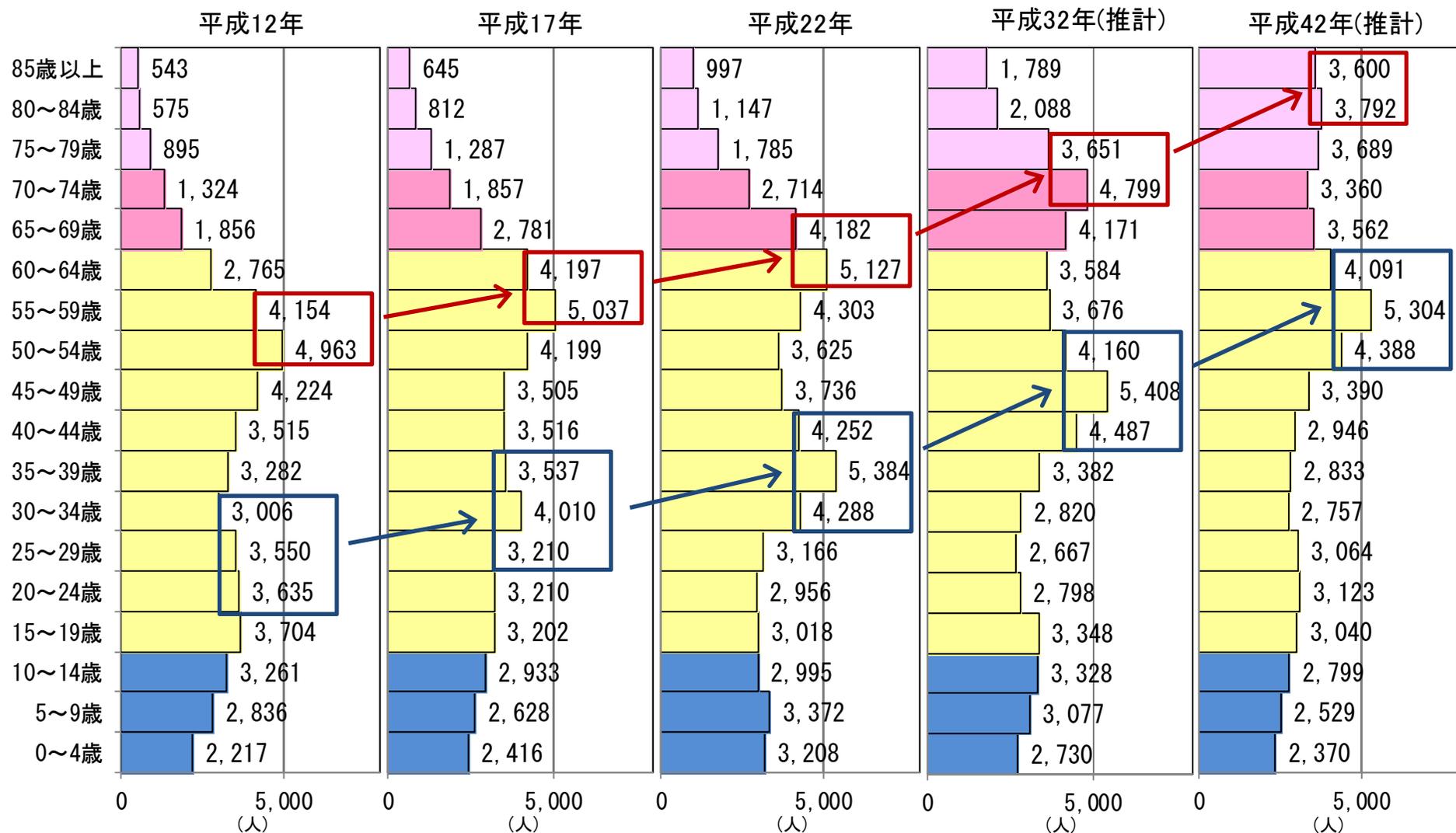
- 平成32年をピークに人口は横ばいから減少傾向へ。

白井市の将来人口推計



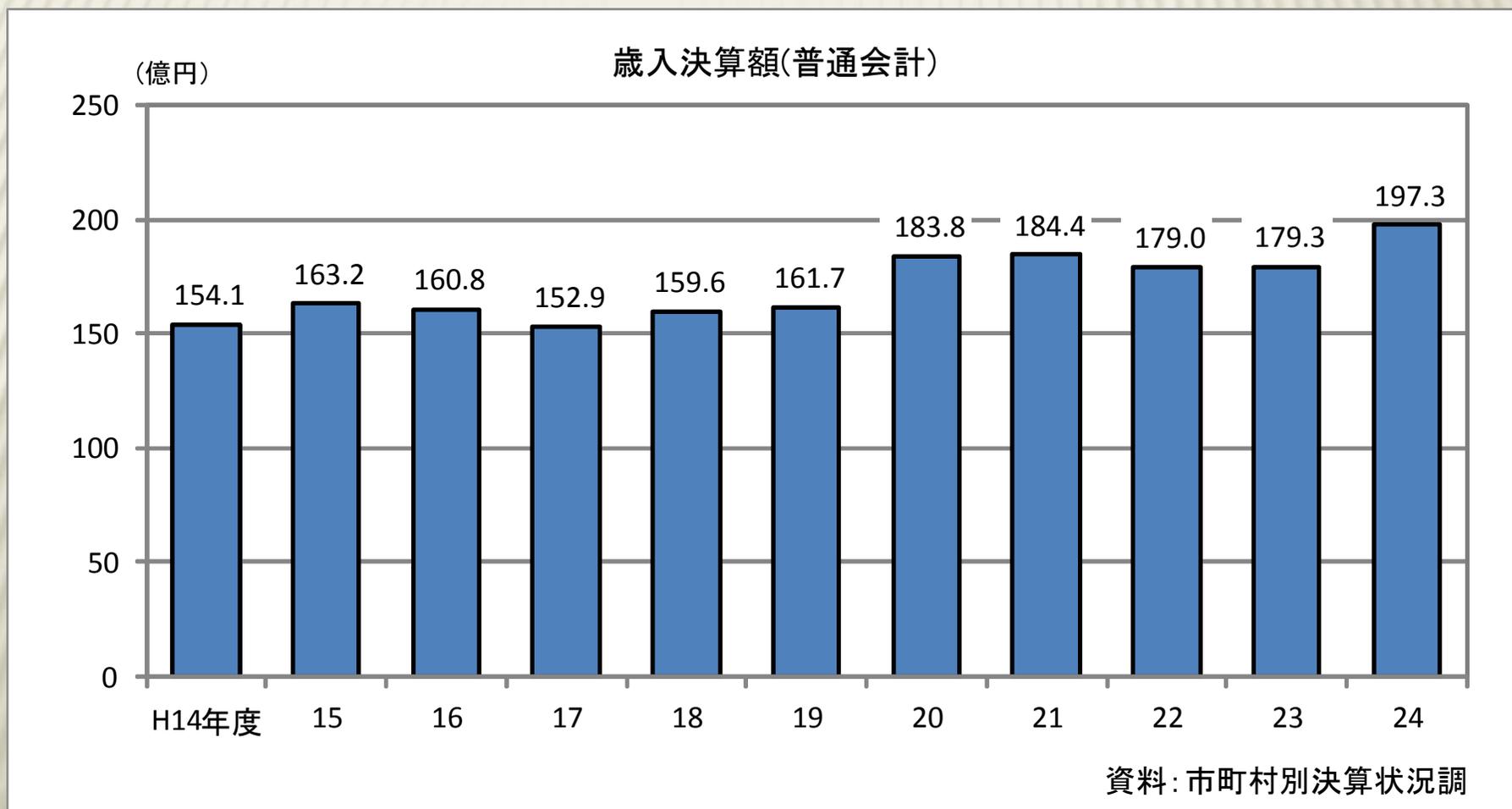
1 人口・世帯 (8) 将来人口の年齢構成

- 平成42年には人口の3割弱が高齢者（後期高齢者は18.3%）。
- 平成47年以降の第2の高齢化の波に備えることが必要。



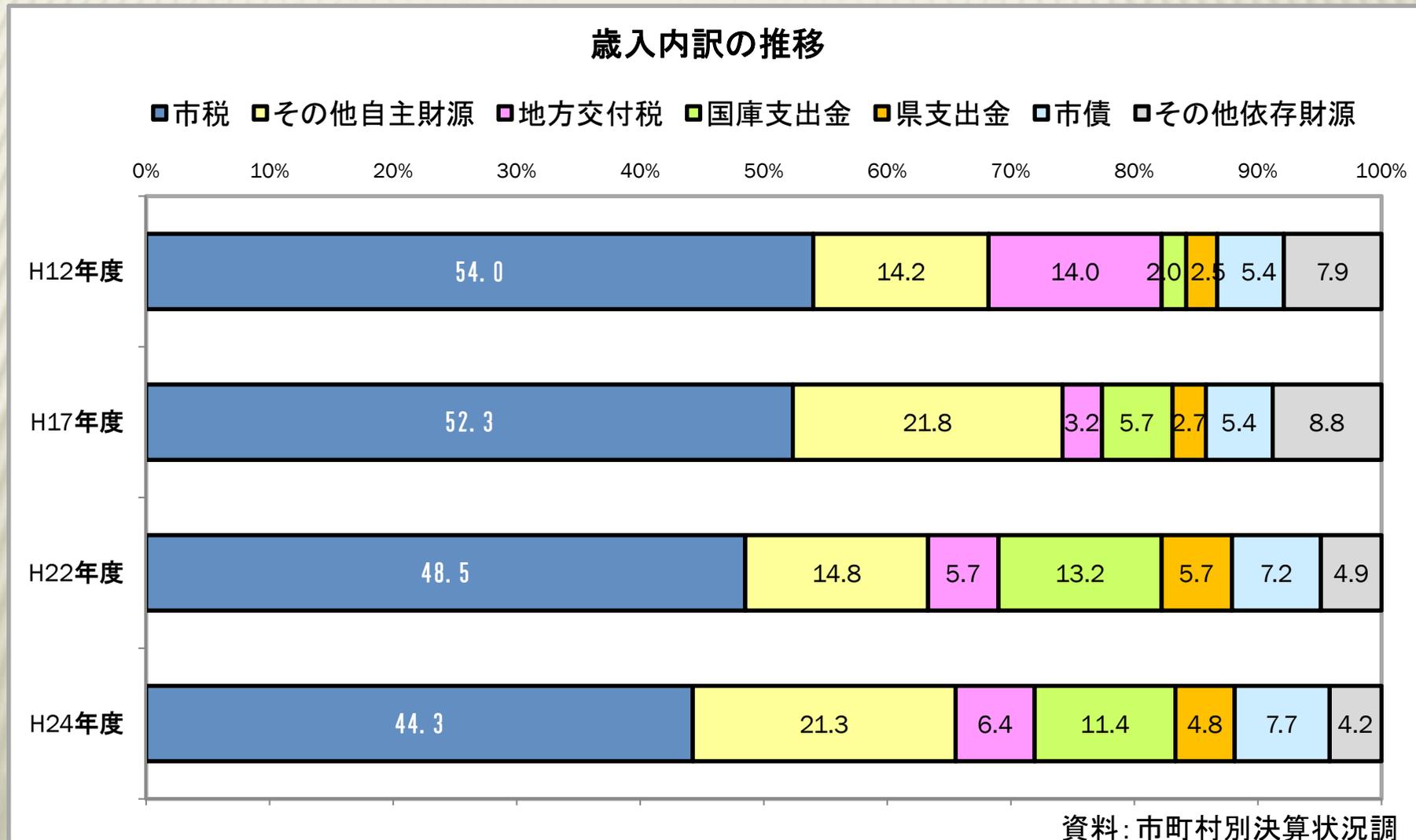
2 財政 (1) 歳入

- 平成24年度の歳入額は約197億円で、人口増加の影響から年により多少の増減はあるものの、全体的には増加傾向。



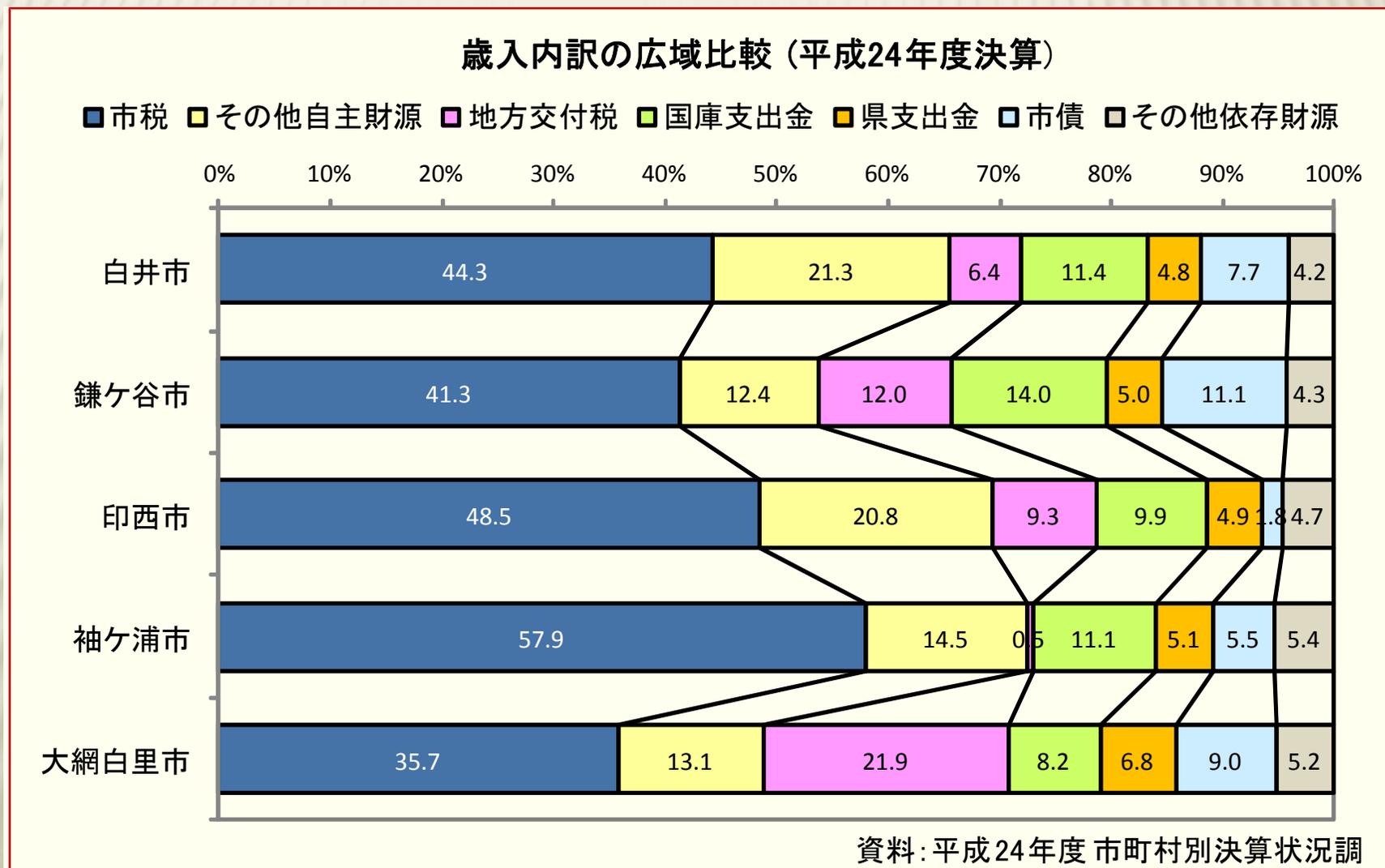
2 財政 (2) 歳入内訳の推移

- 市が独自に調達できている歳入（市税＋その他の自主財源）は減少傾向。



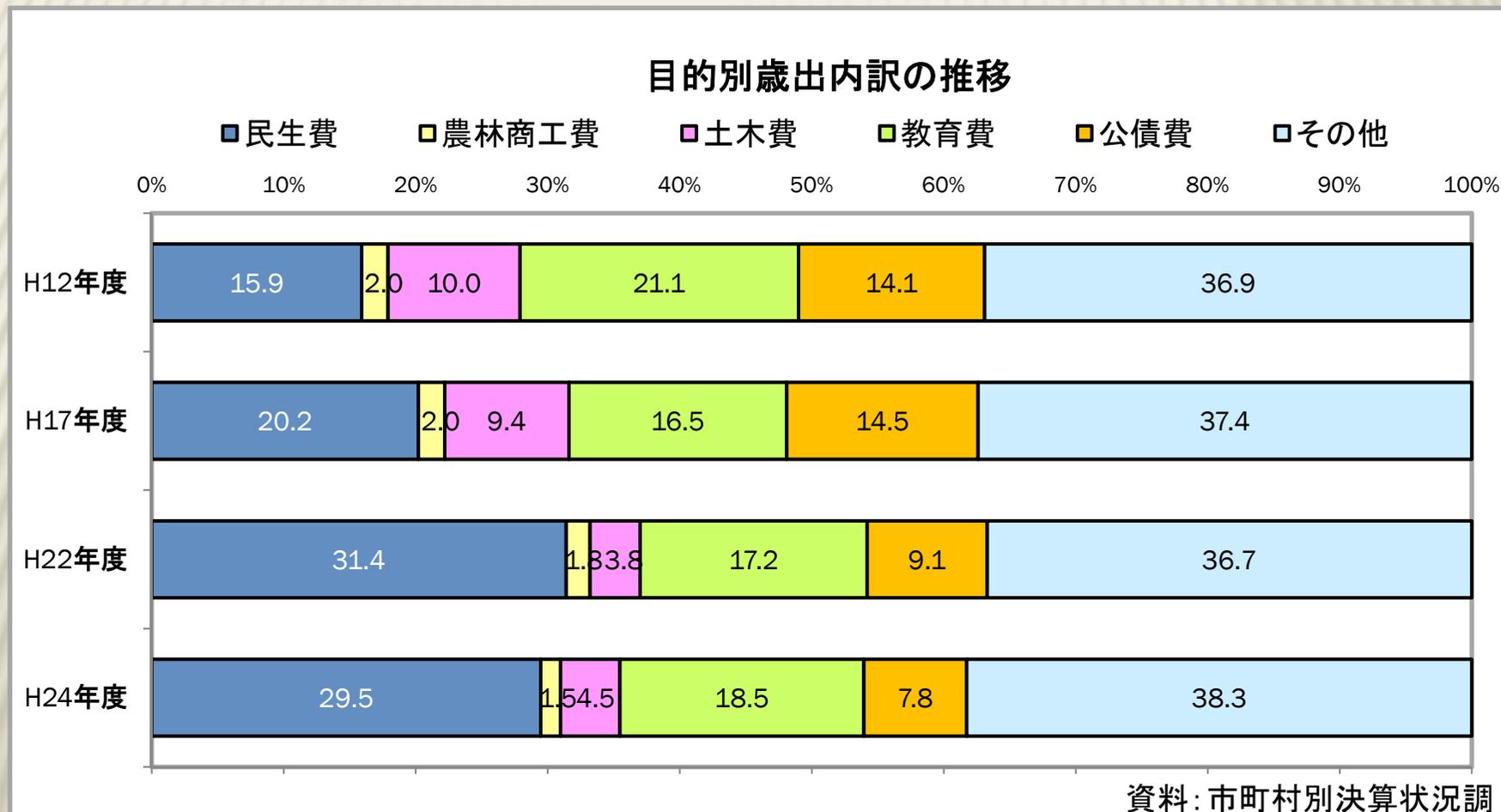
2 財政 (3) 歳入内訳の広域比較

- 市が独自に調達できている歳入は、全体の65.6%で、印西市とほぼ同水準。



2 財政 (4) 目的別歳出内訳の推移

- 目的別に歳出内訳を見ると、民生費は増加傾向にあるが、土木費や公債費は減少傾向にある。



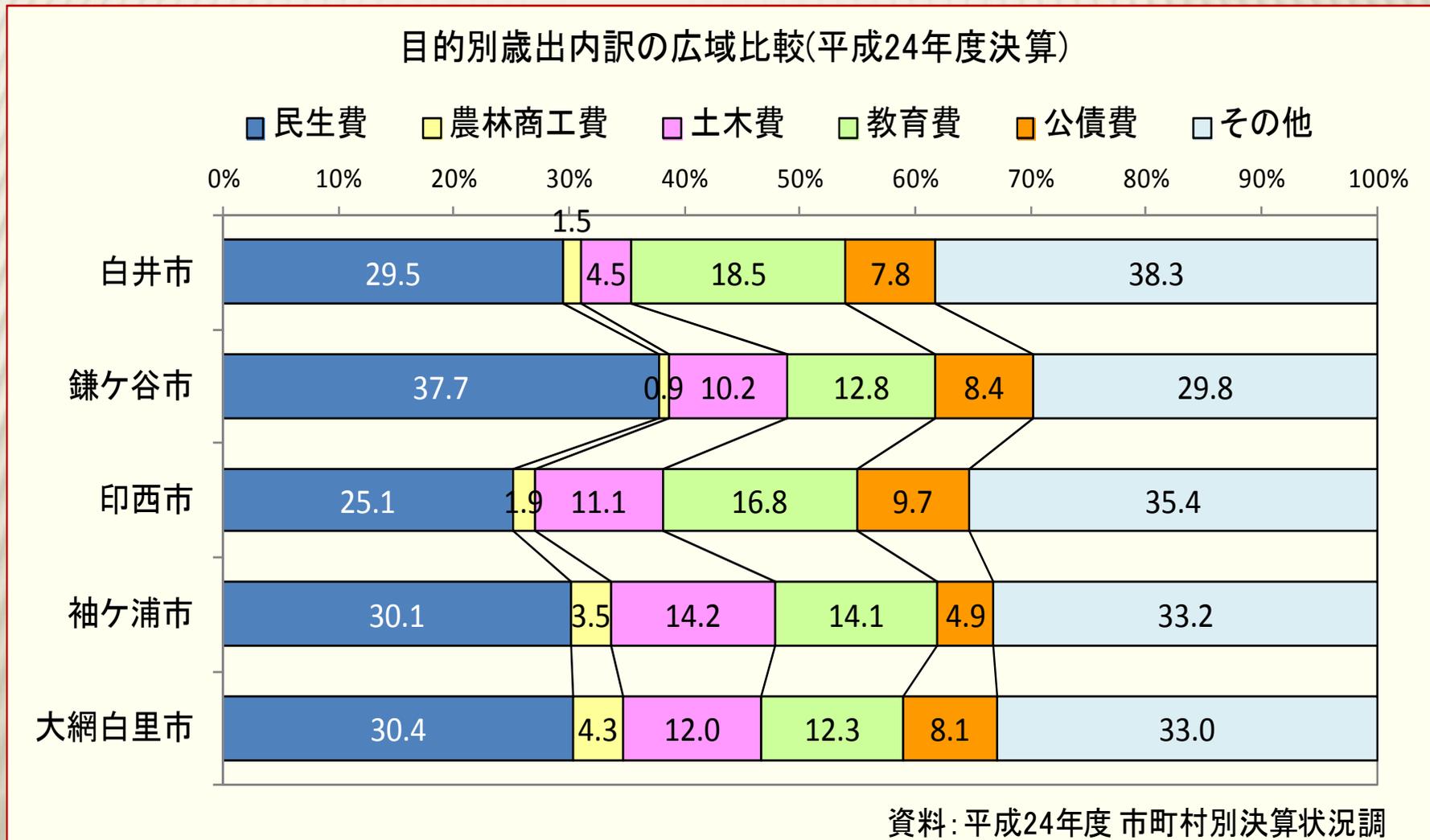
民生費：児童、高齢者、心身障害者等のための福祉施設の整備や運営、生活保護の実施等の費用

土木費：道路、河川、住宅、公園など各種の公共施設の建設整備の費用

公債費：借入金の元金・利子などの支払いの費用

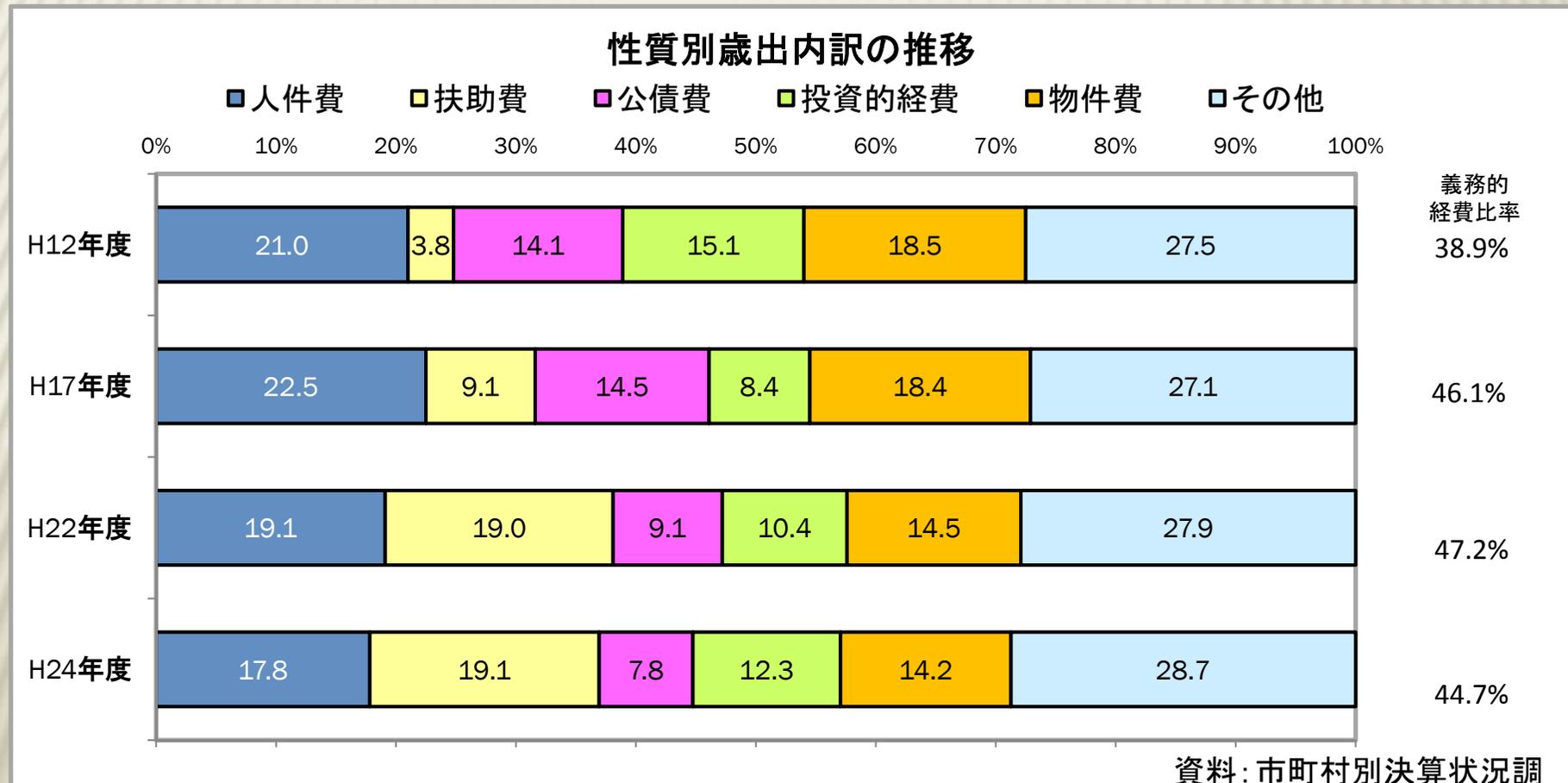
2 財政 (5) 目的別歳出内訳の広域比較

- 近隣市、類似市に比べ教育費の比率が高く、土木費の比率が低い。



2 財政 (6) 性質別歳出内訳の推移

- 性質別に歳出内訳を見ると、扶助費が増加傾向にあるが、そのほかは減少傾向。



扶助費：児童手当や生活保護など、福祉関係の現金等の支給を伴う事業に要する経費

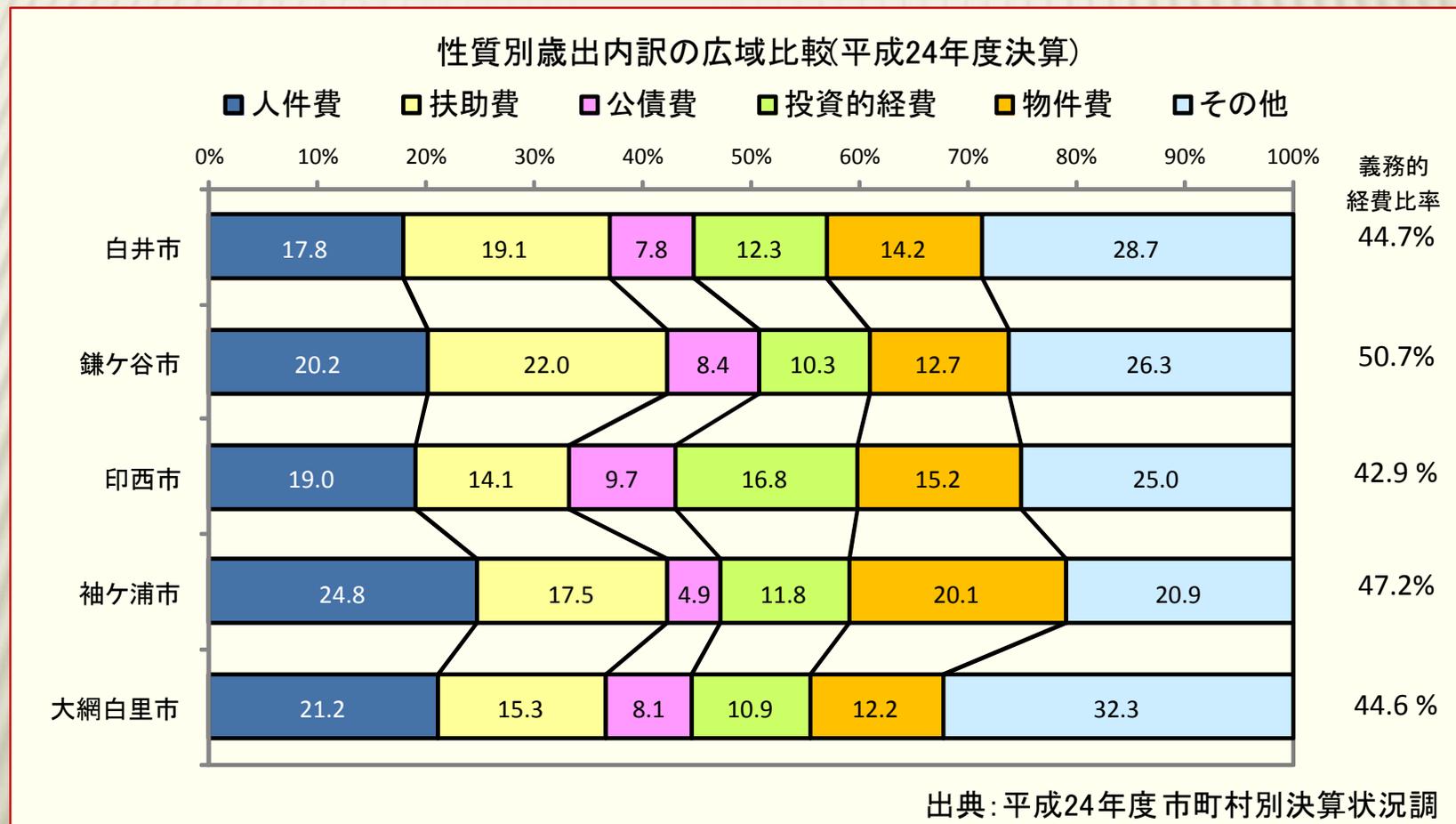
投資的経費：道路や公共施設などの建設等の公共事業に要した経費

物件費：委託料、消耗品や備品の購入などに要する経費

義務的経費：人件費、扶助費、公債費の合計

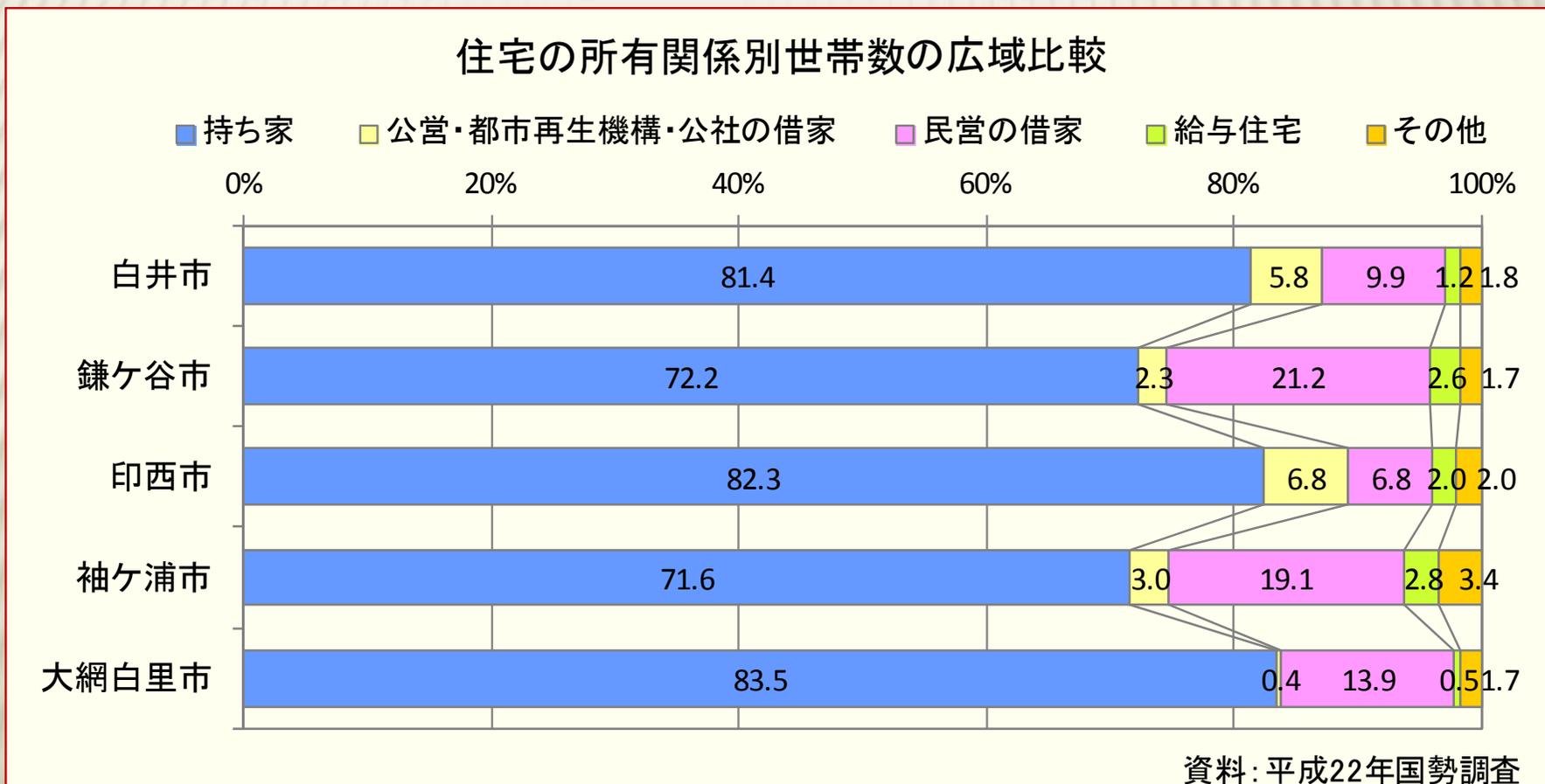
2 財政 (7) 性質別歳出内訳の広域比較

- 近隣市、類似市と比較すると、人件費や公債費の比率が低く、義務的経費の比率は44.7%と比較的低い。



3 住宅（1）住宅所有の状況の広域比較

- 持ち家が8割強を占め、大網白里市・印西市に次ぐ水準となっている。

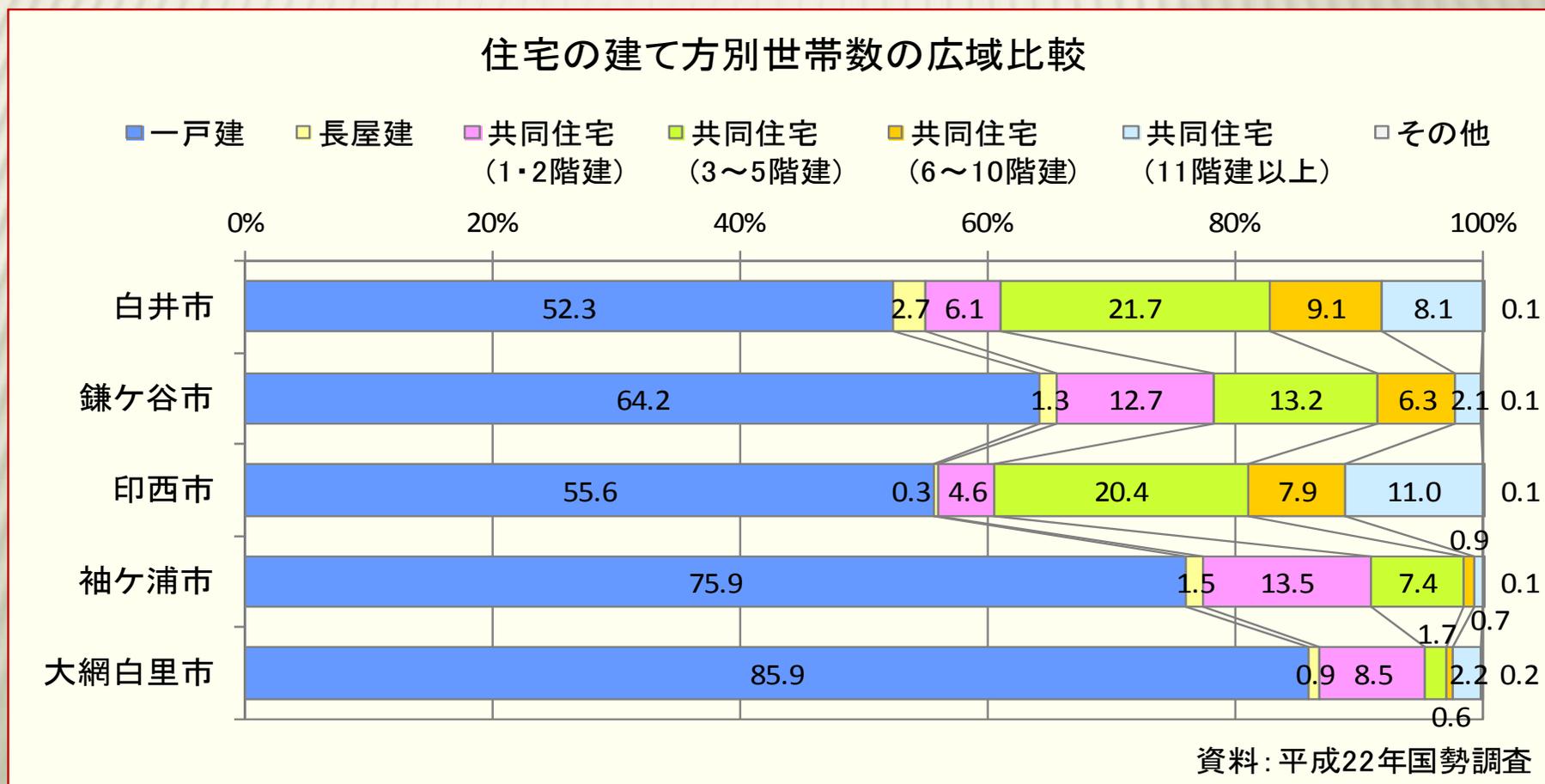


※1 給与住宅：企業や官公庁などが給与の一部として与える住宅のことで、社宅や公務員宿舎などが該当します。

※2 その他：間借りや住宅以外の場所に居住する世帯など。

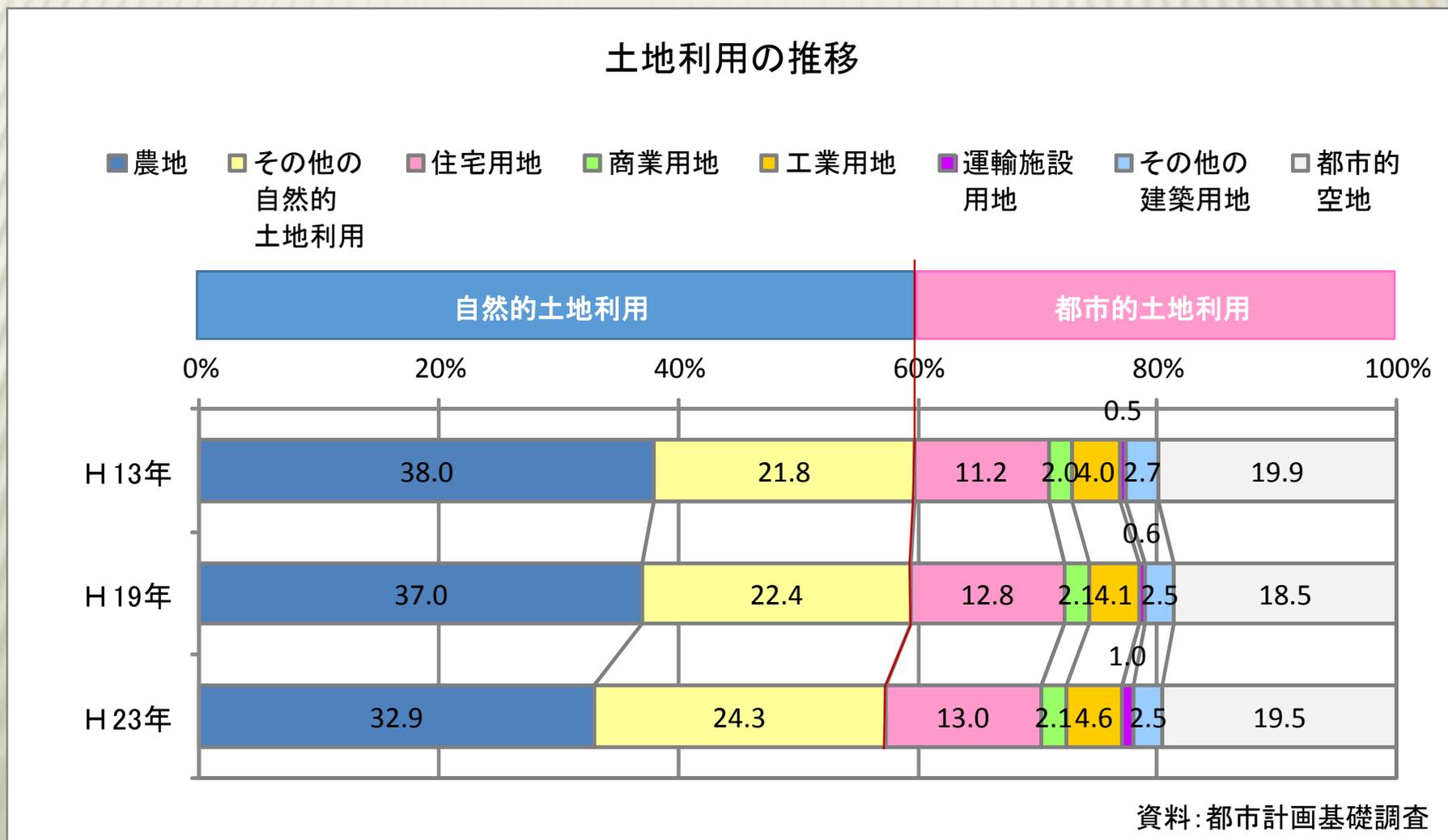
3 住宅（2）建て方別世帯数の広域比較

- 一戸建が約半数、3～5階建の共同住宅が約2割を占める。
- 近隣市、類似市と比較すると印西市と似た傾向にあるが、印西市に比べ長屋建や1・2階建の共同住宅の比率がやや高



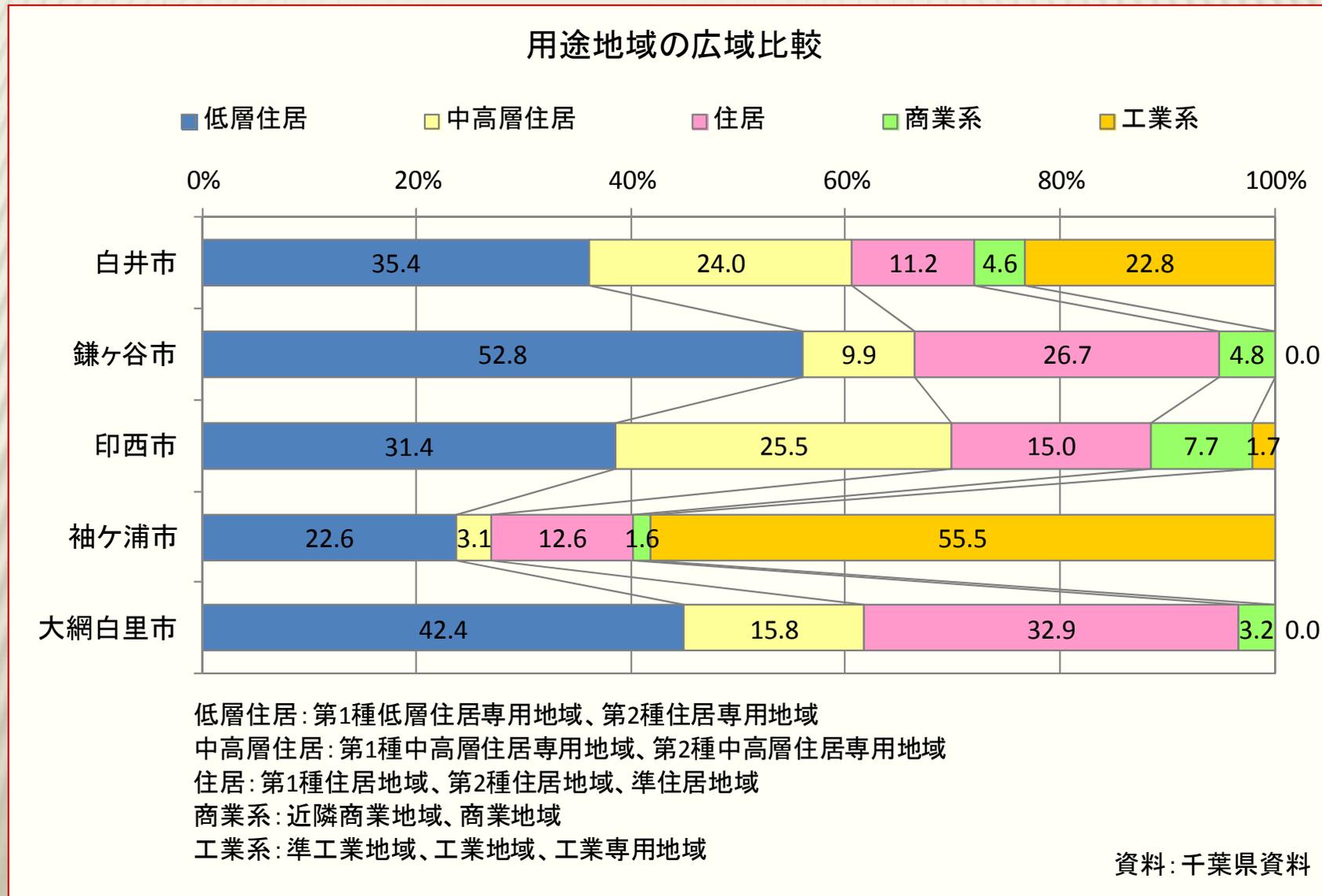
4 土地利用 (1) 地目別面積

- 自然的土地利用が約6割、都市的土地利用が約4割。
- 農地が減少する一方、宅地が増加する傾向。



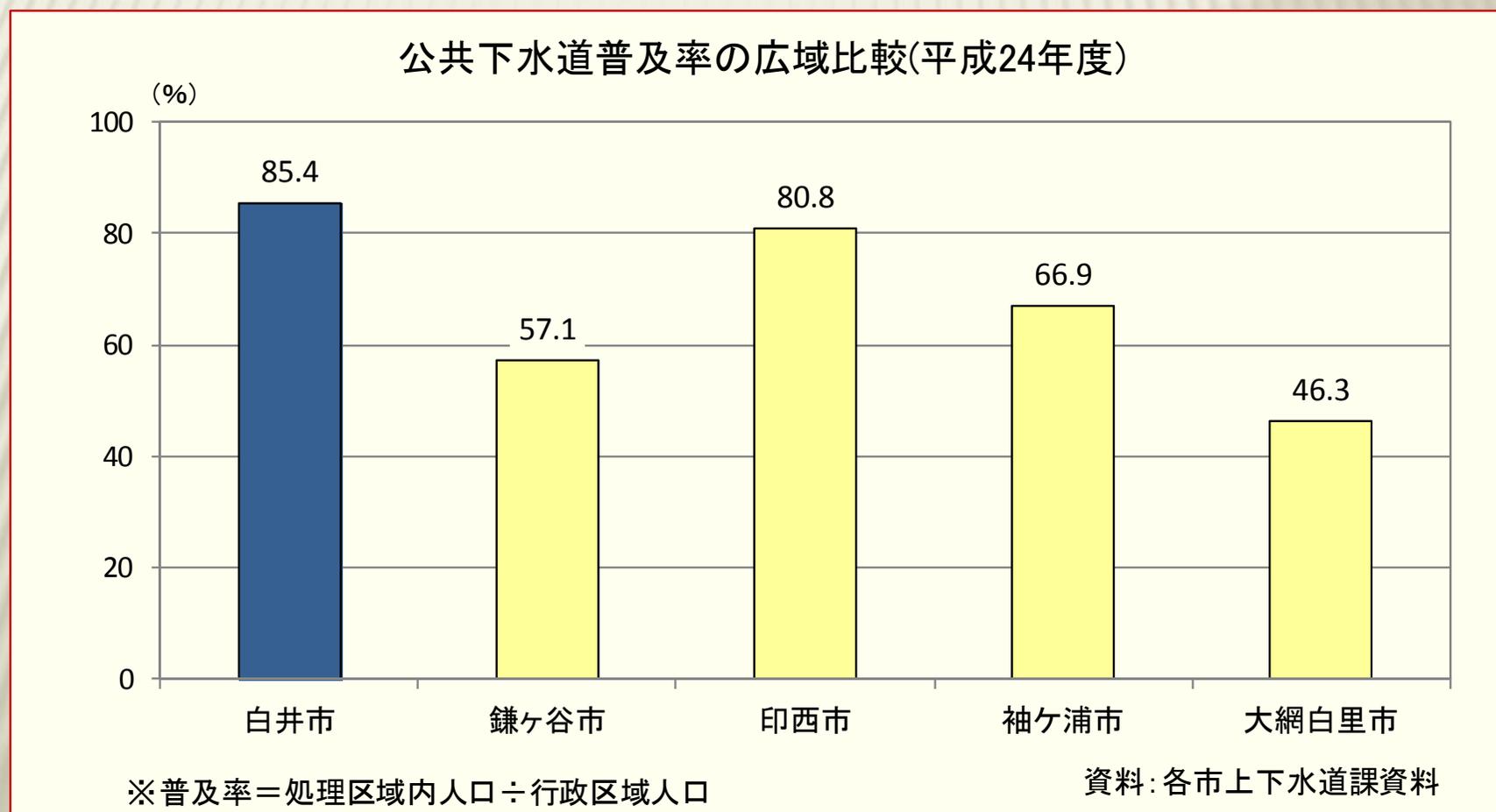
4 土地利用 (2) 用途地域の広域比較

- 中高層住居や工業系の用途の比率が高い。



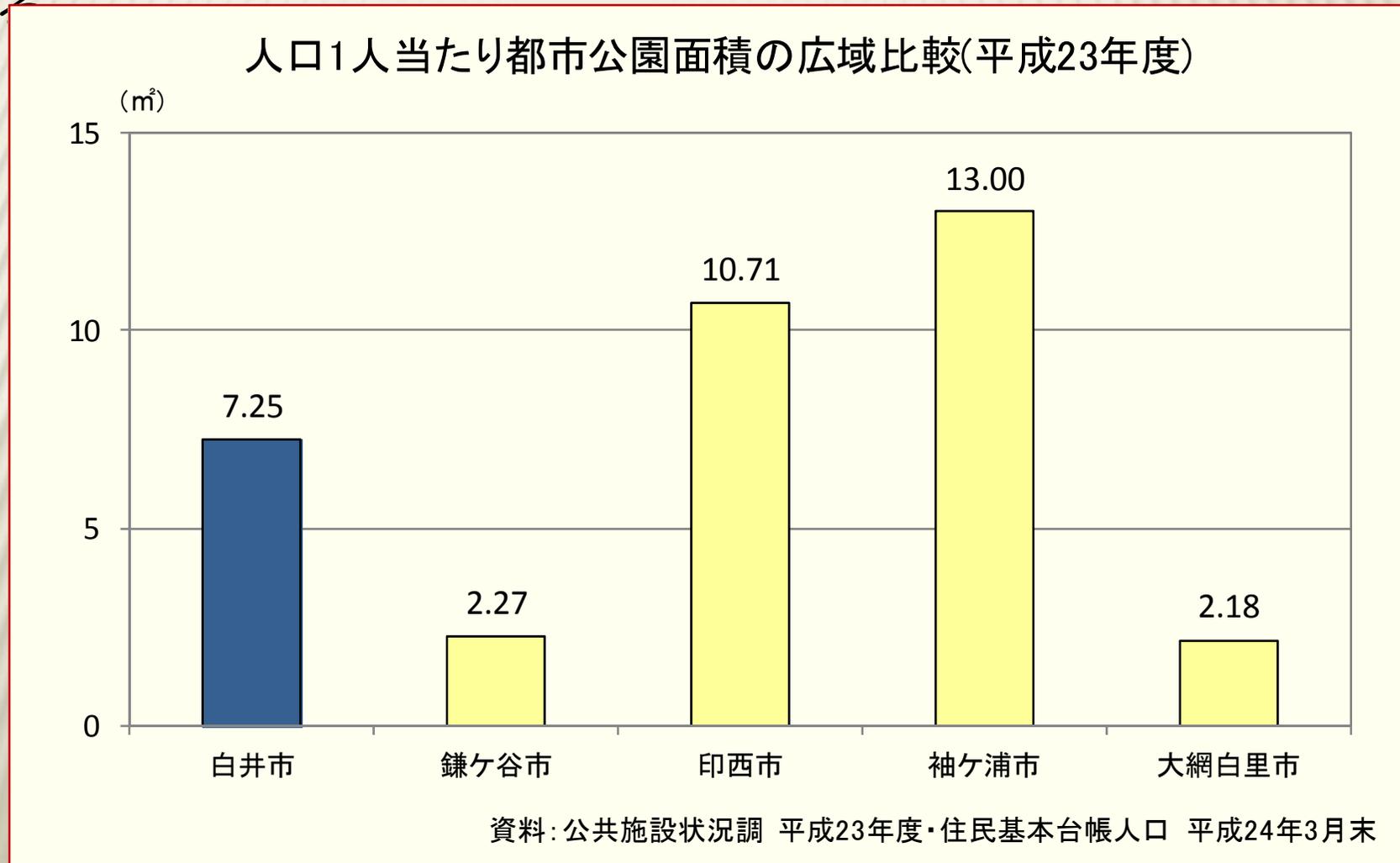
5 都市基盤 (1) 下水道普及率の広域比較

- 公共下水道普及率（総人口に占める、下水道が整備された地域に住む人口の比率）は、85.4%。
- 近隣市、類似市と比較すると最も整備率が高い。



5 都市基盤 (2) 都市公園面積の広域比較

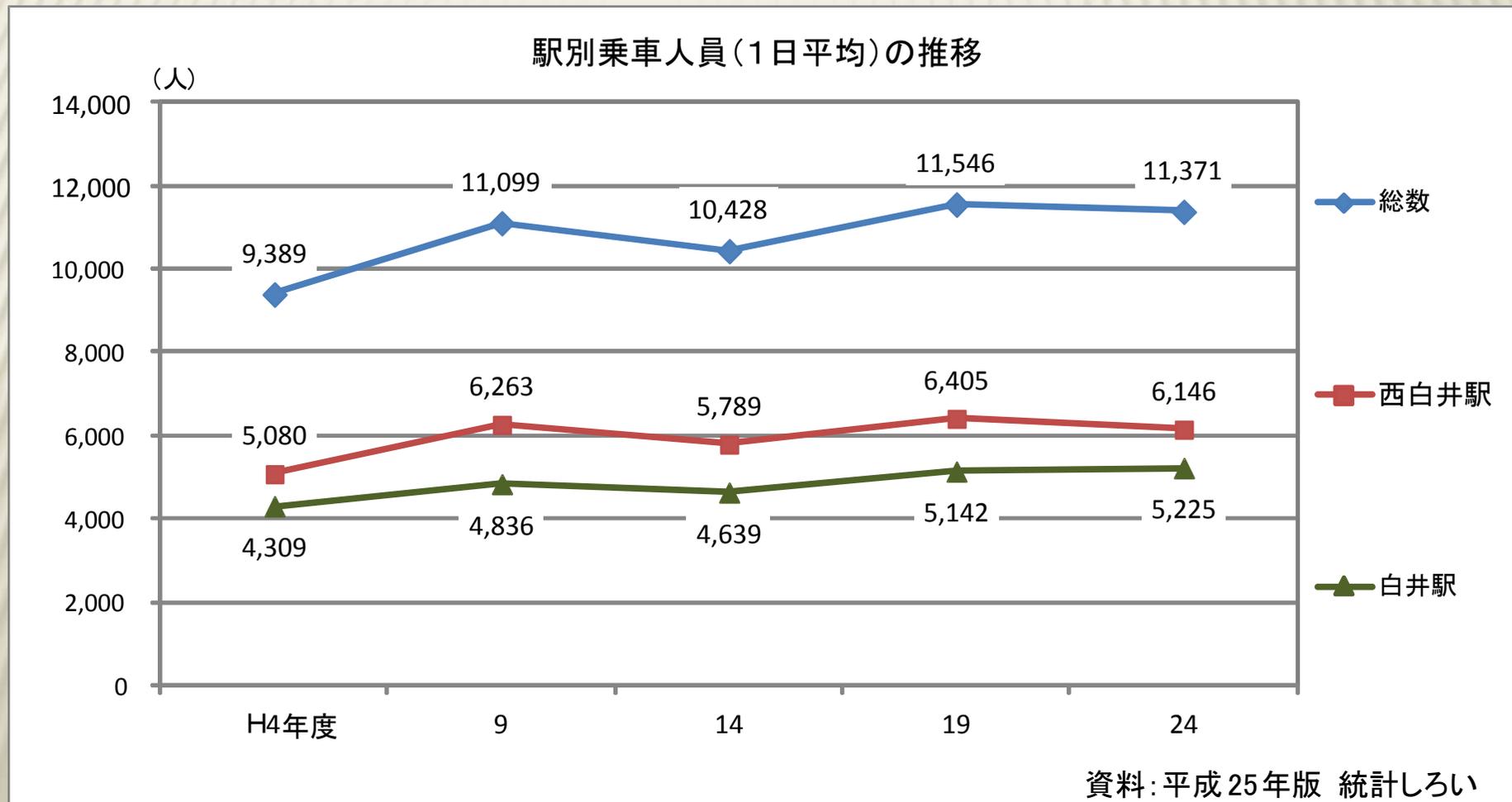
- 人口1人当たりの都市公園※¹の面積は7.25㎡で、鎌ヶ谷市や大網白里市よりは大きいものの、袖ヶ浦市や印西市を下回す



※都市公園: 都市公園法に基づいて国・県・市町村が整備する公園のこと

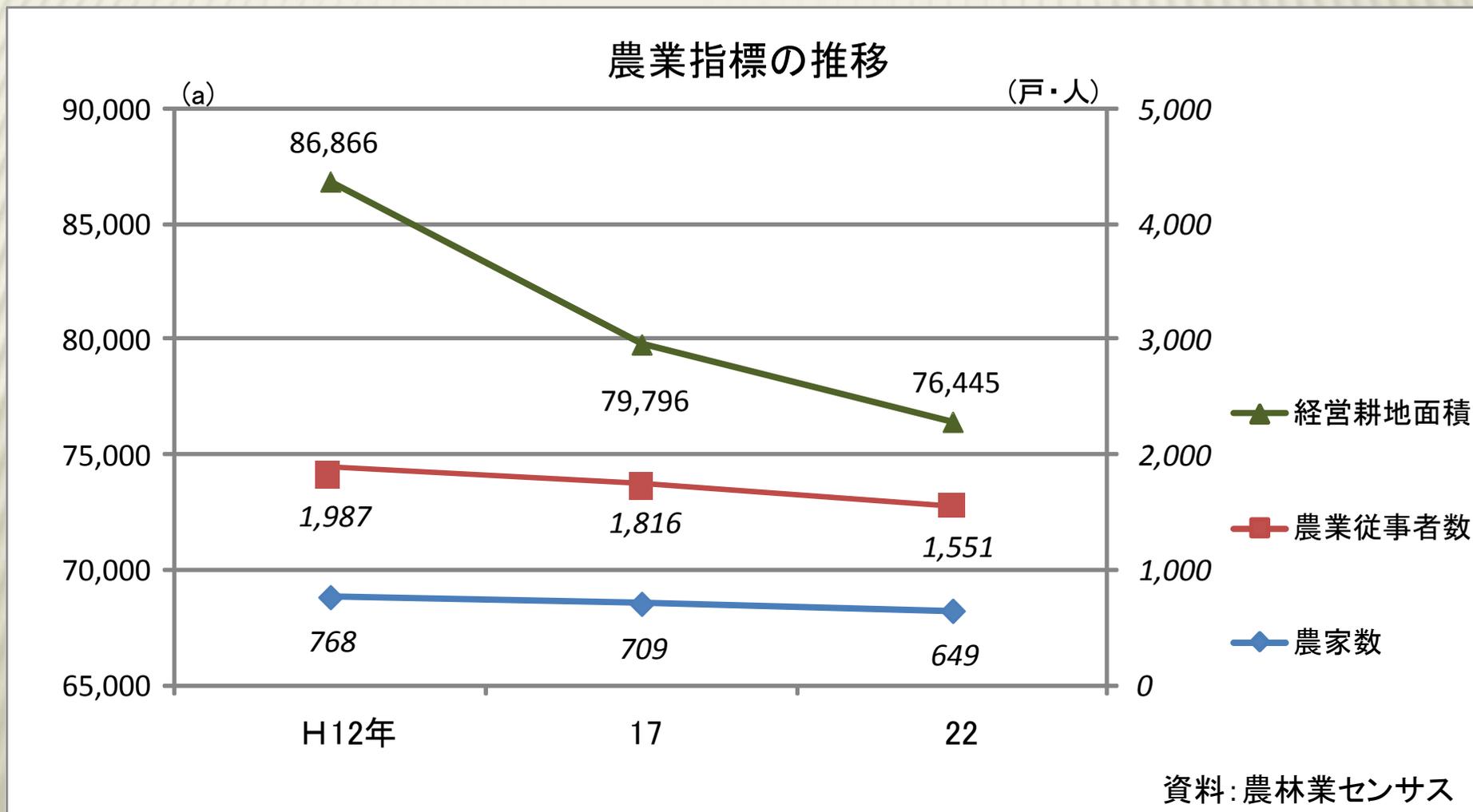
5 都市基盤 (3) 鉄道

- 白井駅は平成14年度以降増加傾向にあるが、西白井駅は平成19年度以降減少傾向にある。



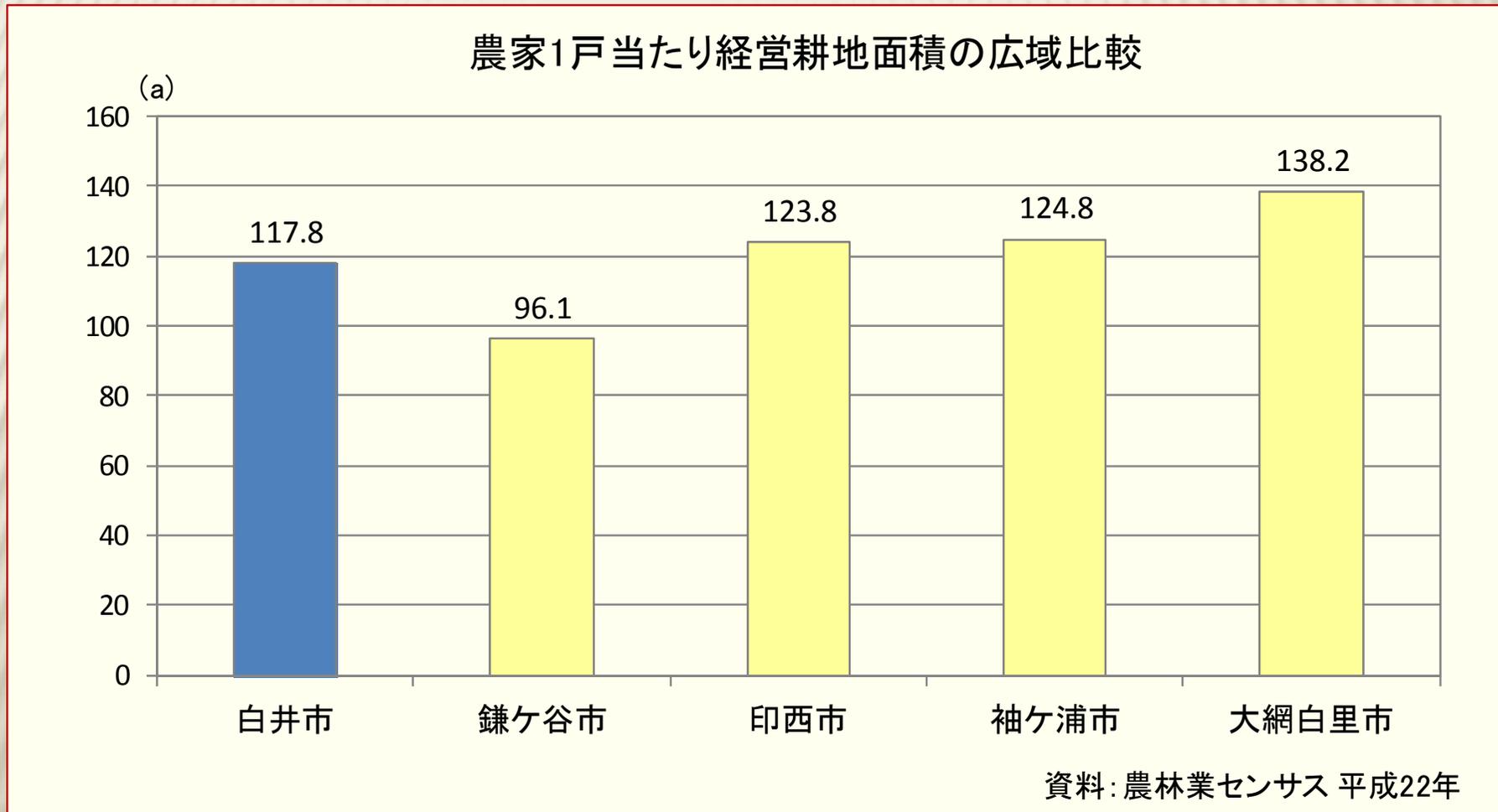
6 産業 (1) 農業

- 農業従事者数、農家数、経営耕地面積は減少傾向。



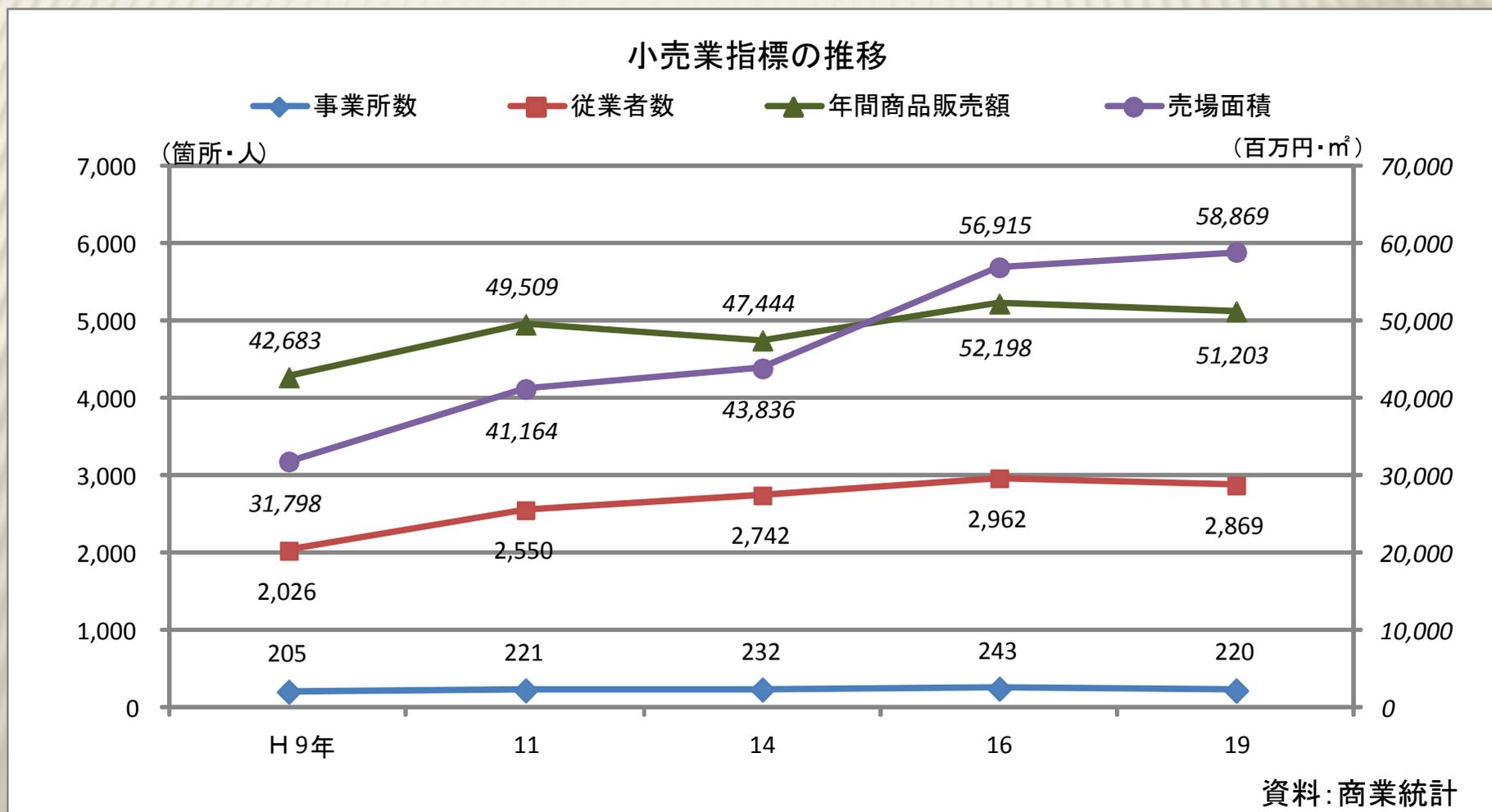
6 産業 (2) 農業指標の広域比較

- 農家1戸当たりの経営耕地面積は117.8aと、近隣市、類似市に比べ規模がやや小さい。



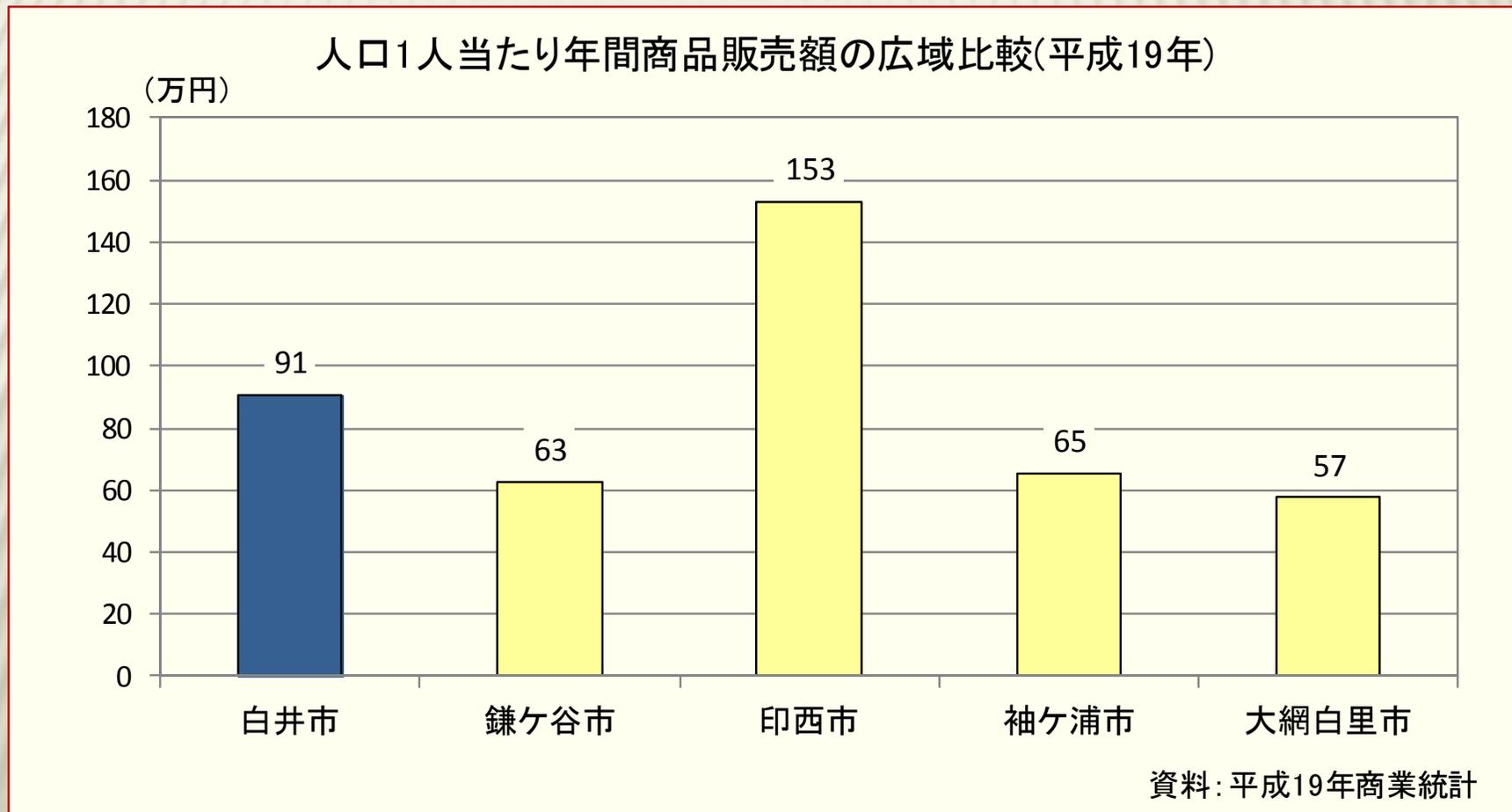
6 産業（3）小売業

- 平成16年から平成19年にかけて、売場面積は増加傾向にあるが、店舗数や従業者数、商品販売額は減少傾向。



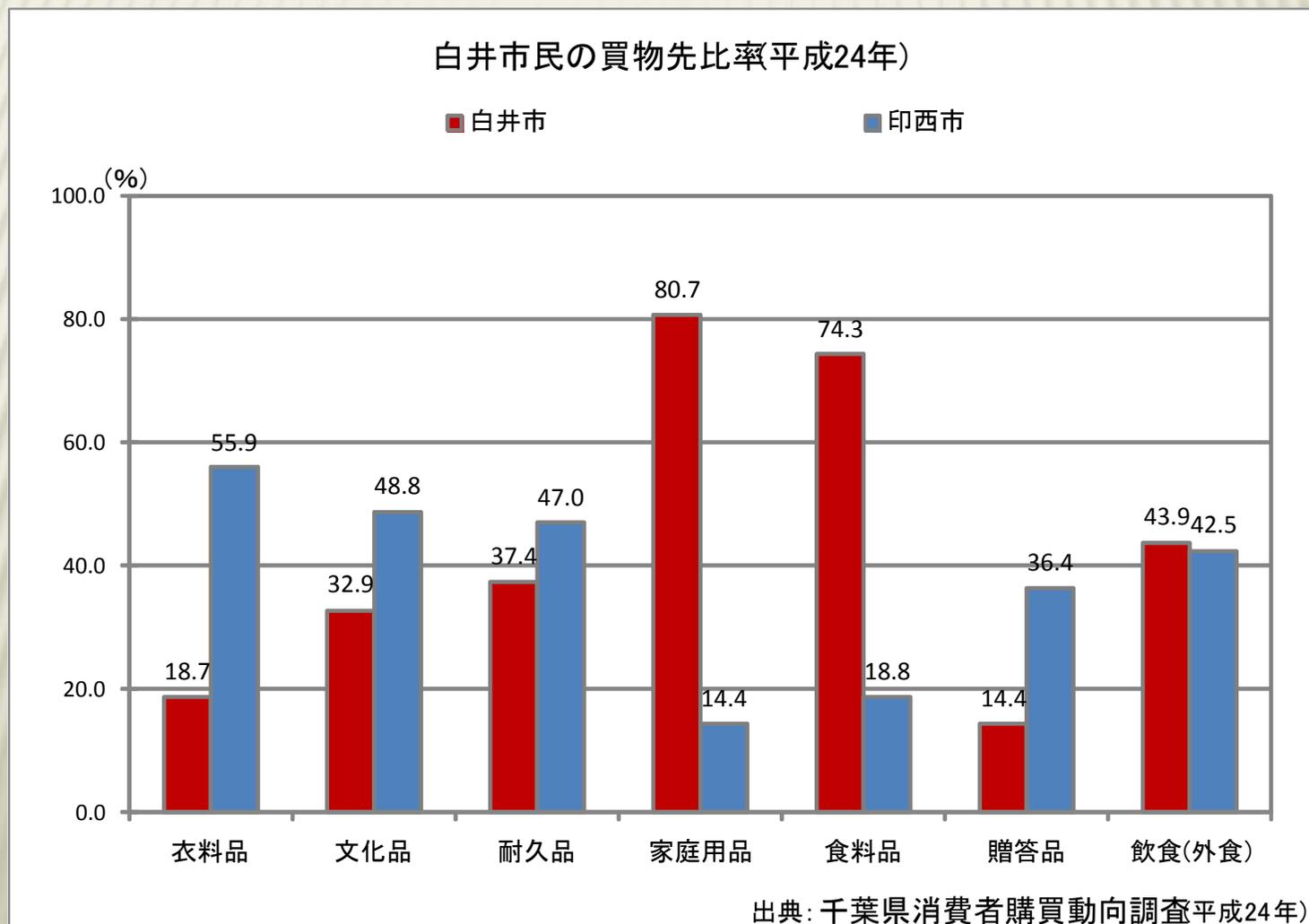
6 産業 (4) 小売業指標の広域比較

- 人口1人当たりの年間商品販売額は91万円と印西市に次いで高い。



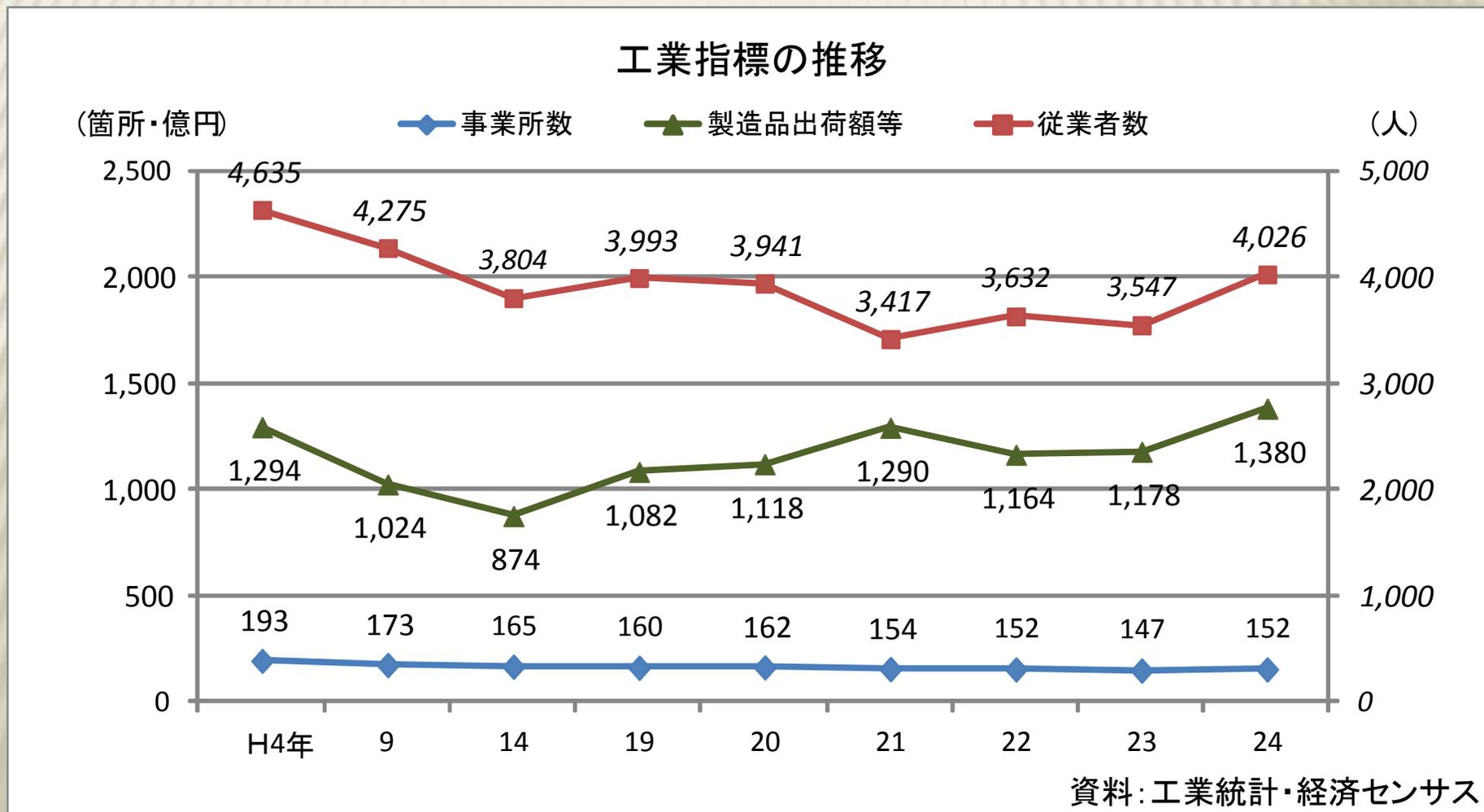
6 産業 (5) 市内での市民の購買状況

- 家庭用品や食料品などの買物は市内の比率が7~8割。
- その他の品目では市外での買物比率が高く、印西市での買物比率が高い。



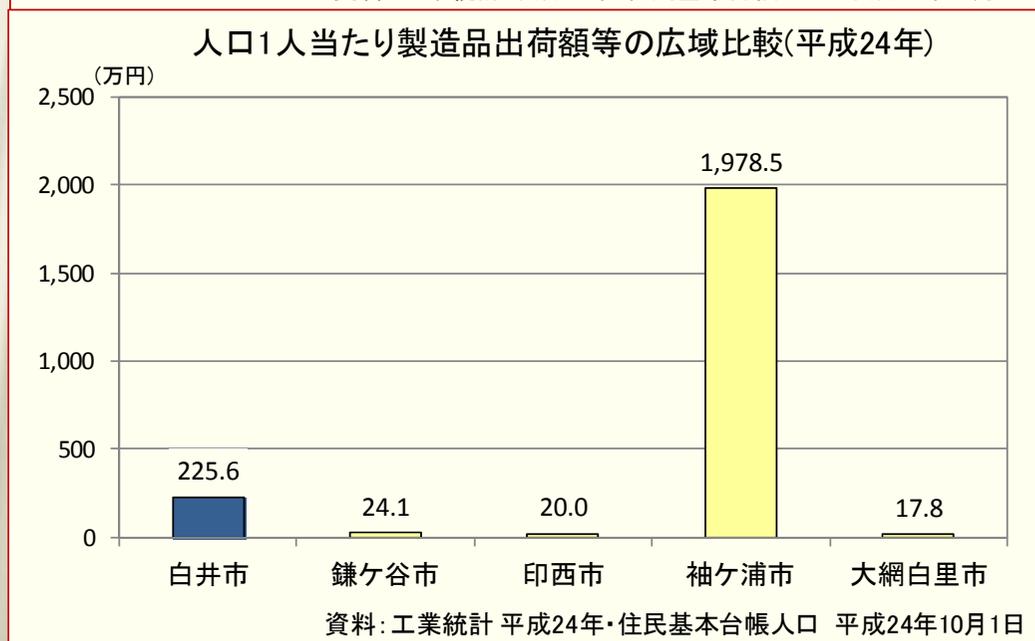
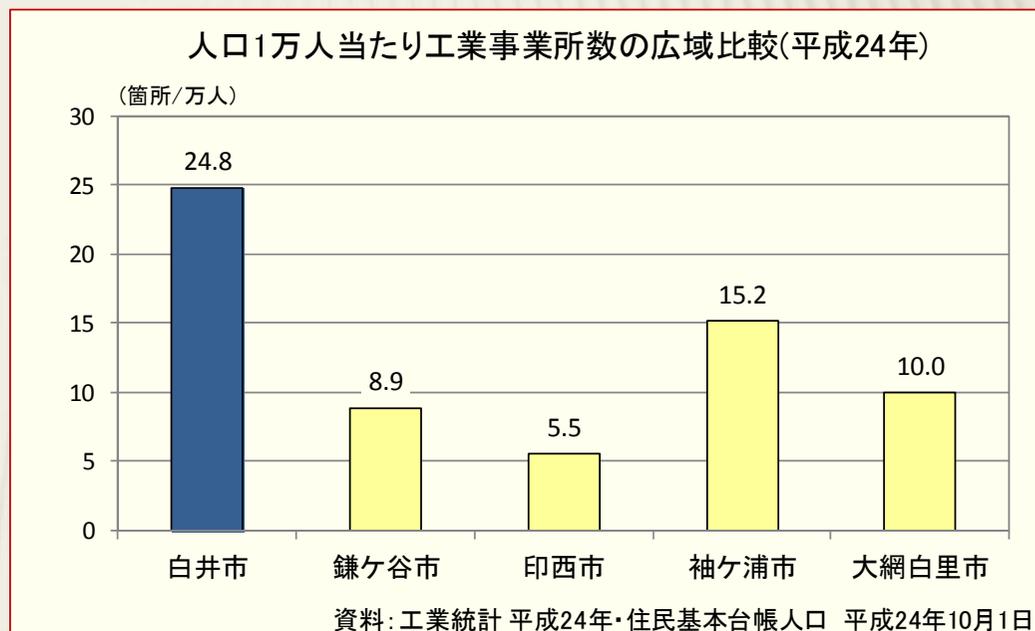
6 産業（6）工業

- 事業所数は長期的には減少傾向にあったが平成24年は増加。従業者数も平成24年は500人近く増加。
- 製造品出荷額等は平成14年以降増加傾向。



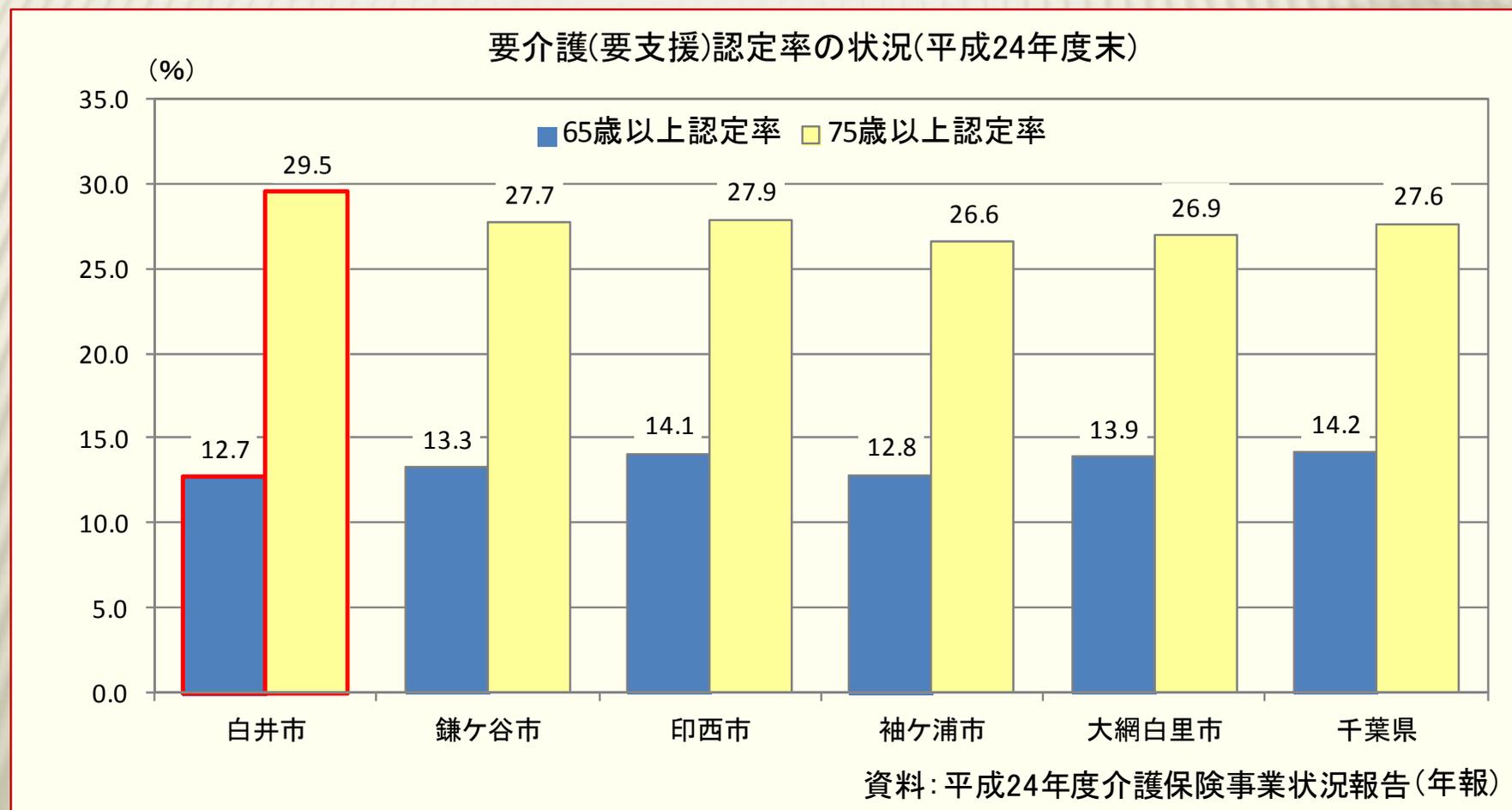
6 産業 (7) 工業指標の広域比較

- 人口1万人当たりの工業事業所数は24.8箇所と、近隣市、類似市に比べて多い。
- 人口1人当たり製造品出荷額等は、225.6万円で、袖ヶ浦市に比べると低いものの、その他の都市よりは大幅に高い。



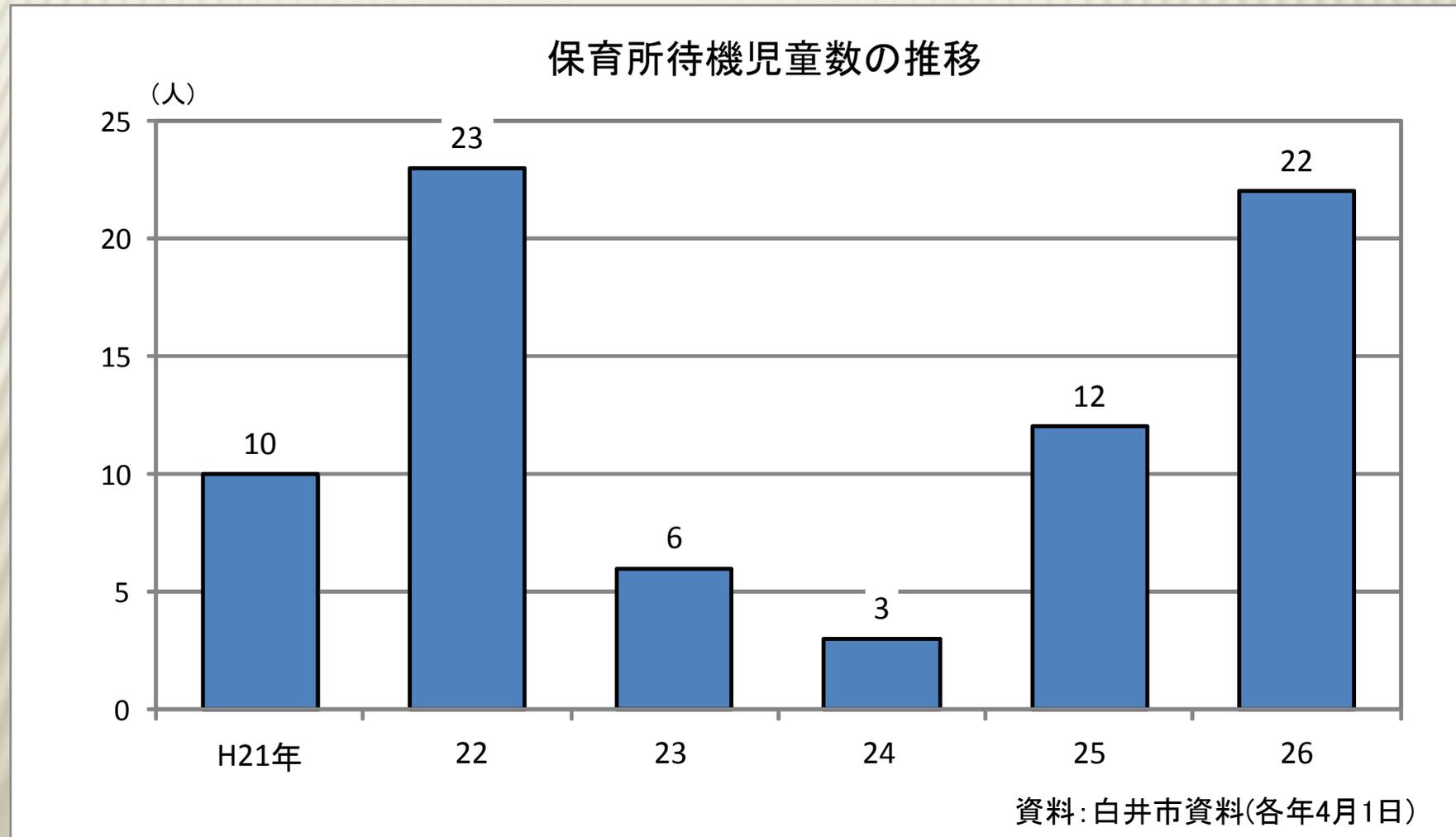
7 福祉（1）要支援・要介護認定率の広域比較

- 要支援・要介護認定率は65歳以上では低いものの、75歳以上の比率が高く、年齢の上昇とともに状態が悪化する市民が多い。



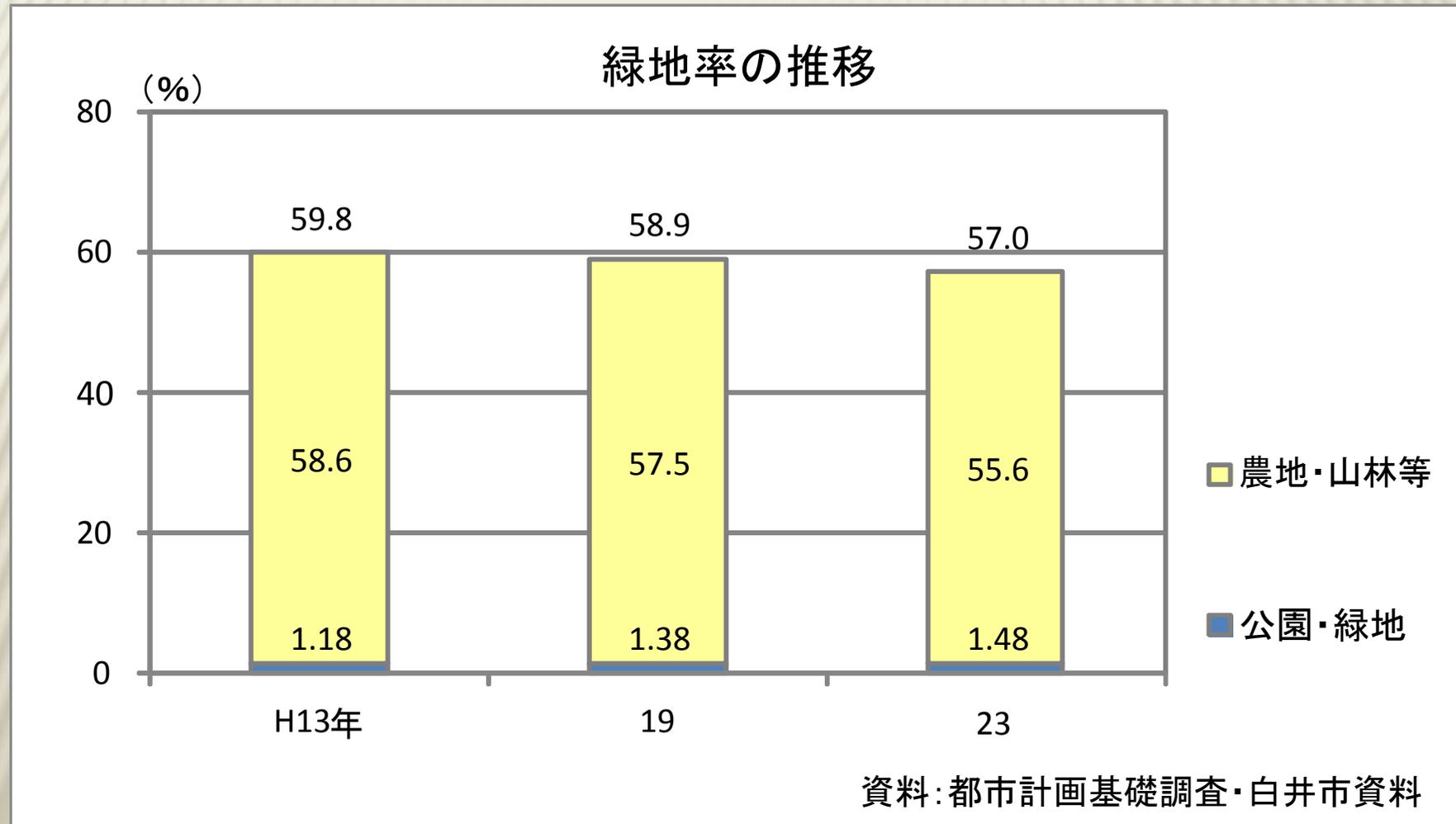
7 福祉 (2) 待機児童数

- 保育所の待機児童数は、年によるばらつきが大きいですが、平成25年、26年では10人程度ずつ増加。



8 環境 (1) 緑地率

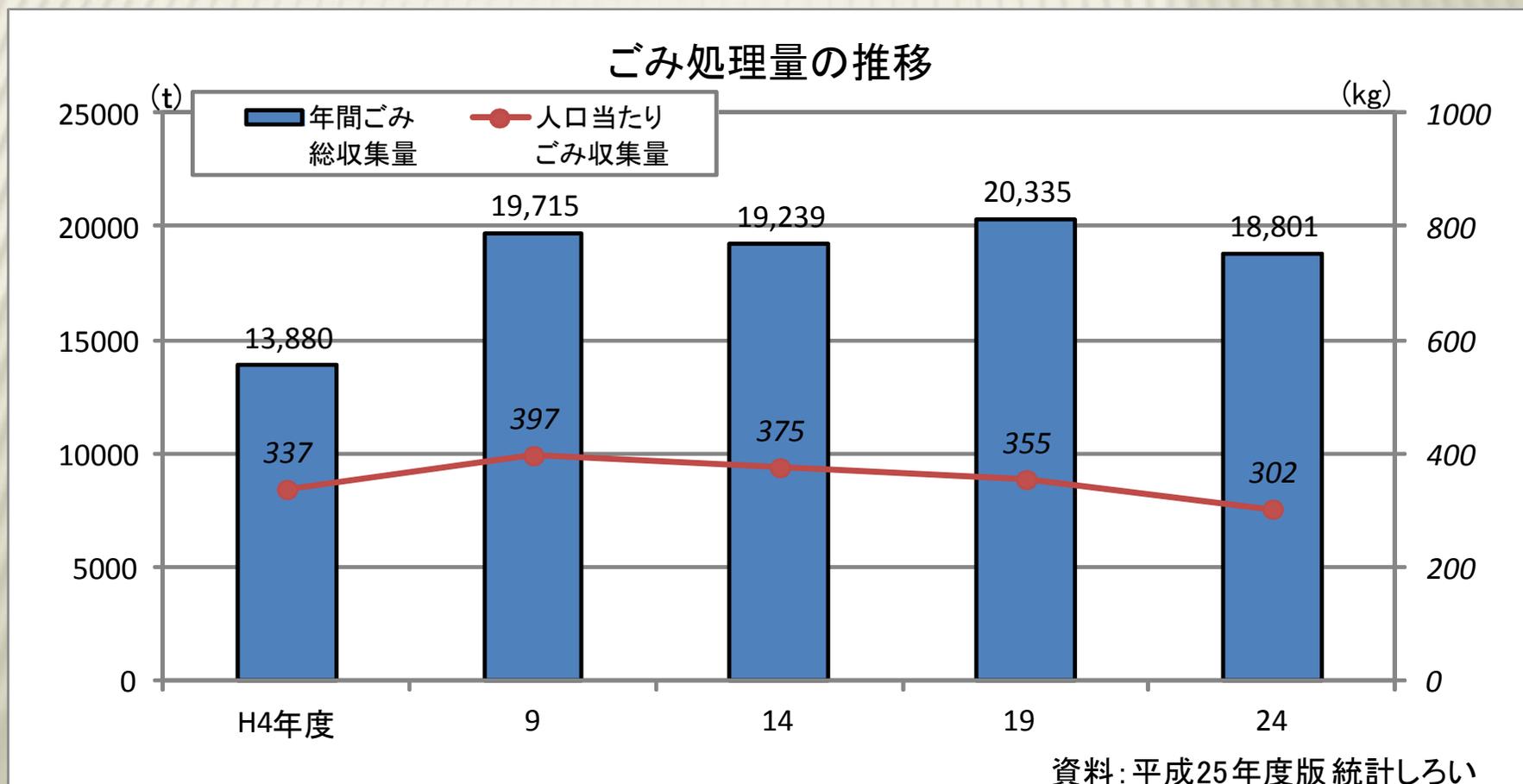
- 公園・緑地の面積は整備に伴い増加している一方、農地等の減少により、緑地率は年々低下する傾向。



※緑地率 = (公園・緑地面積 + 農地・山林等面積【農地 + 山林 + 耕作放棄地等】) ÷ 行政区域面積

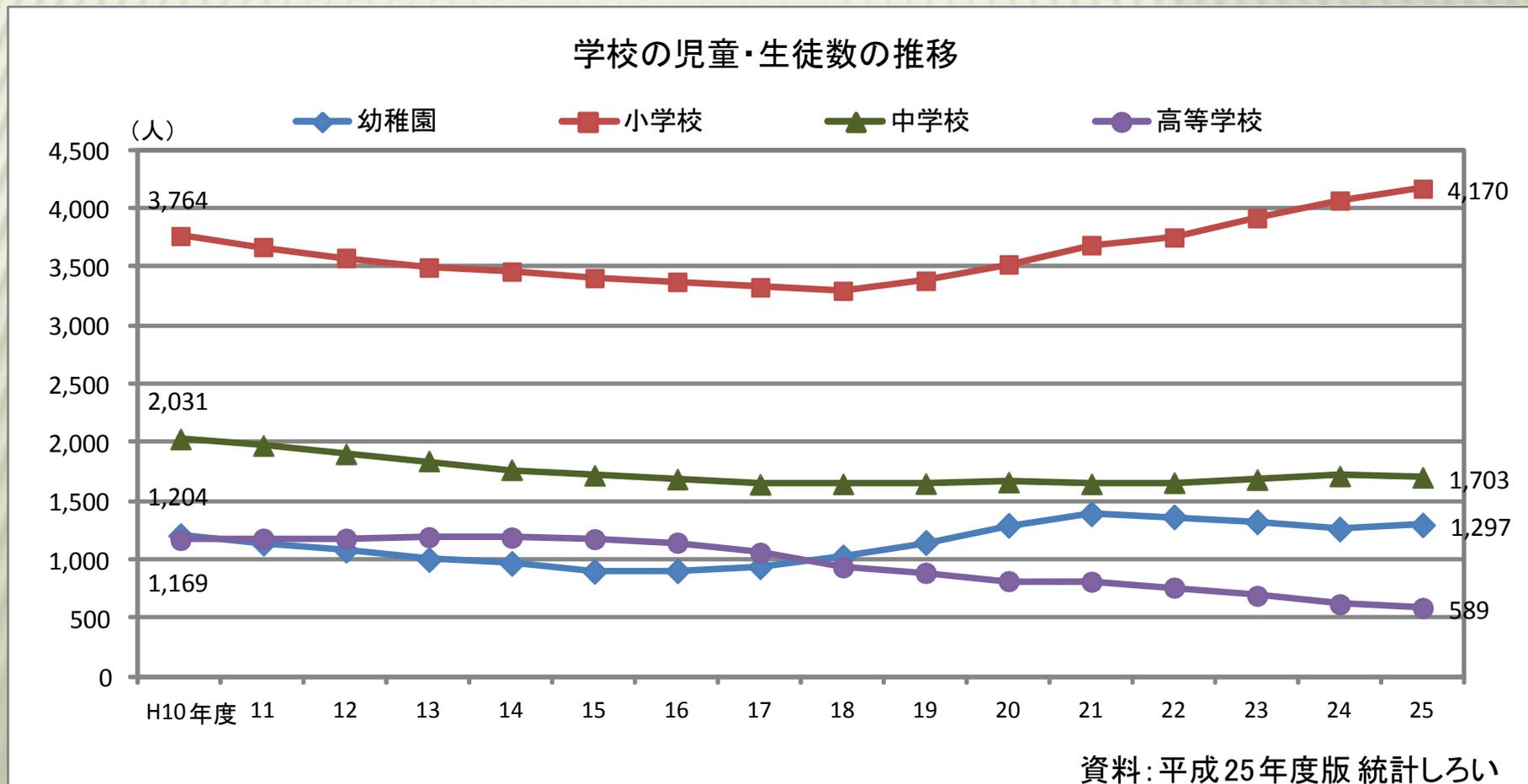
8 環境 (2) ごみ処理

- ごみ収集量は平成9年度以降横ばい傾向であったが、平成19年度以降は減少傾向。
- 人口当たりの収集量は平成9年度をピークに減少に転じている。



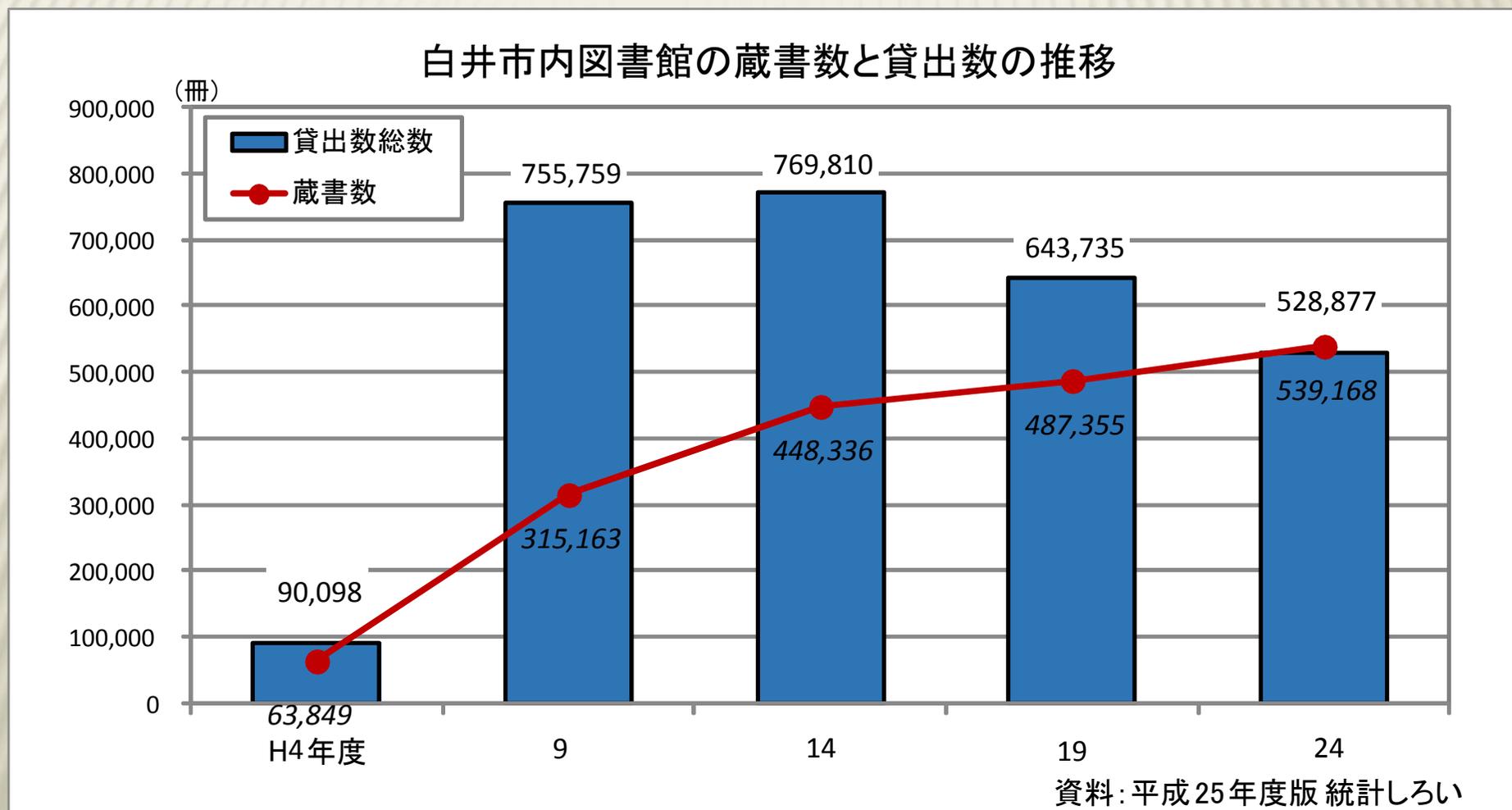
9 教育・文化 (1) 学校の児童・生徒数

- 幼稚園の園児は平成22年度以降減少傾向にあるが、小学校の児童は平成19年度以降増加傾向が続いている。
- 高等学校の生徒数は平成14年度以降減少が続いている。



9 教育・文化 (2) 図書館

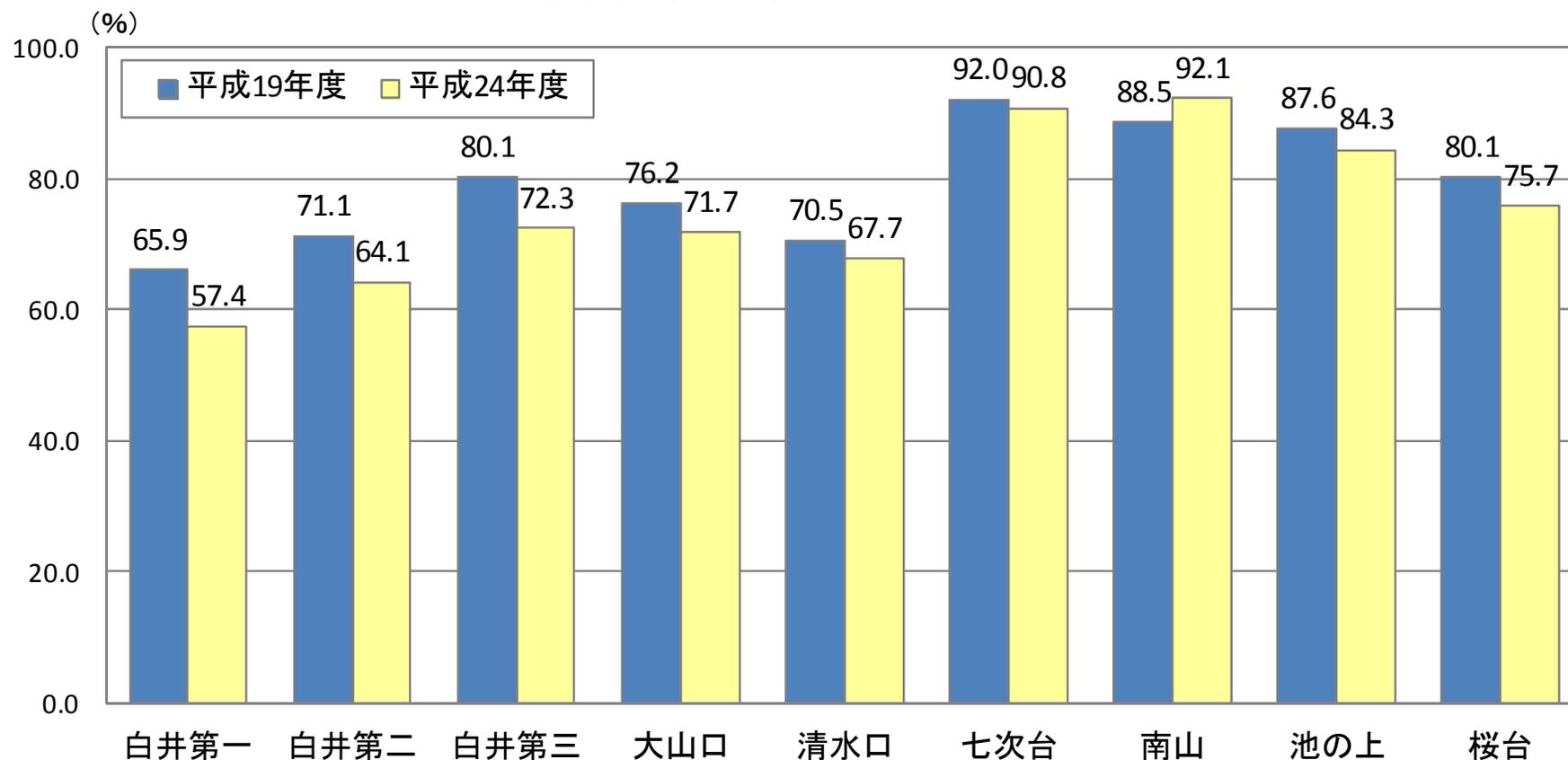
- 図書館の蔵書数は平成24年度で約54万冊で年々増加。
- 貸出数総数は平成14年度をピークに減少。



10 コミュニティ (1) 自治会加入率

- 平成19年度から平成24年度にかけての学校区別の自治会加入率は南山小学校区では増加しているものの、その他の小学校区では減少。

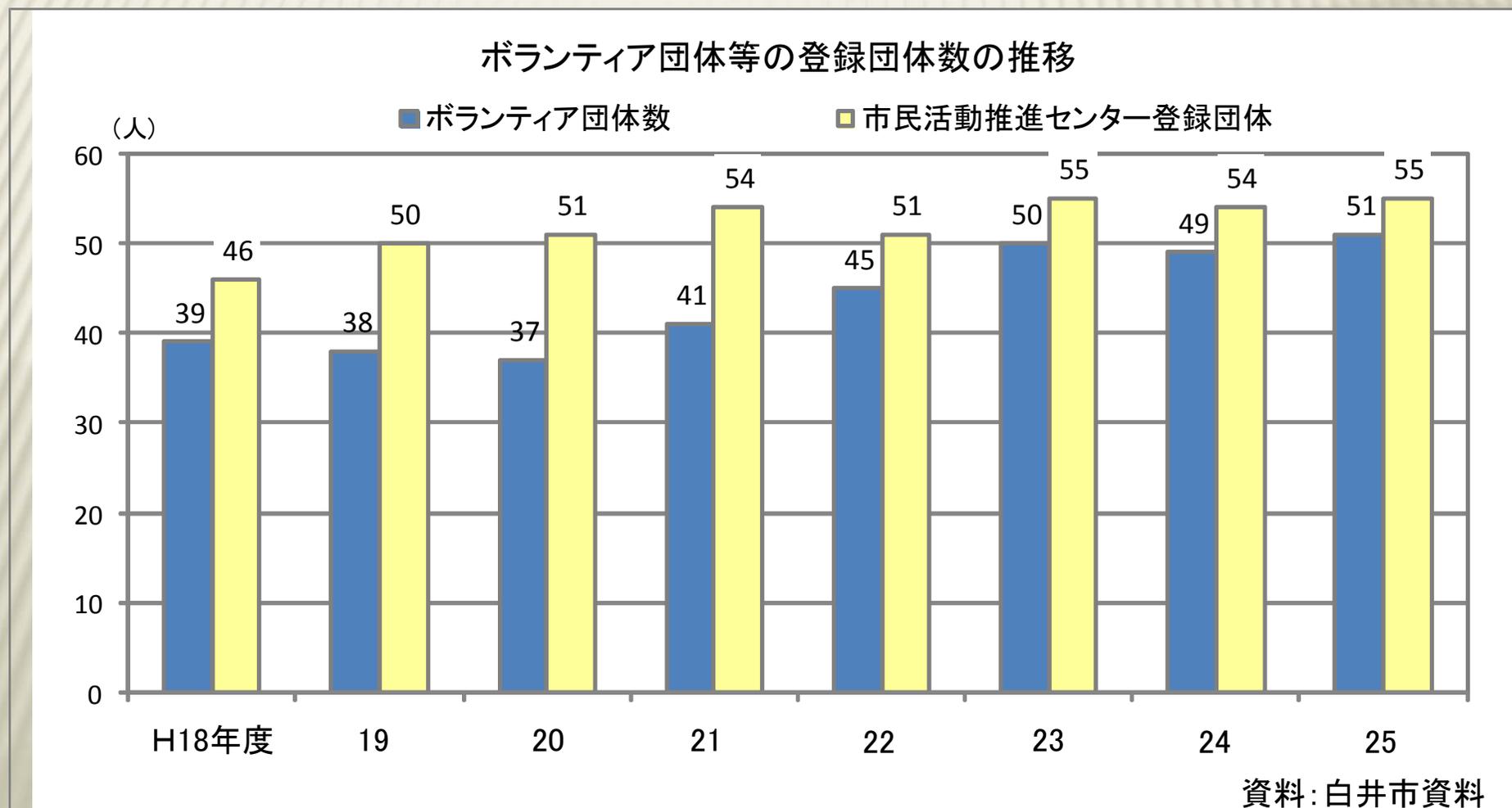
学校区別自治会加入率の推移



資料: 白井市資料

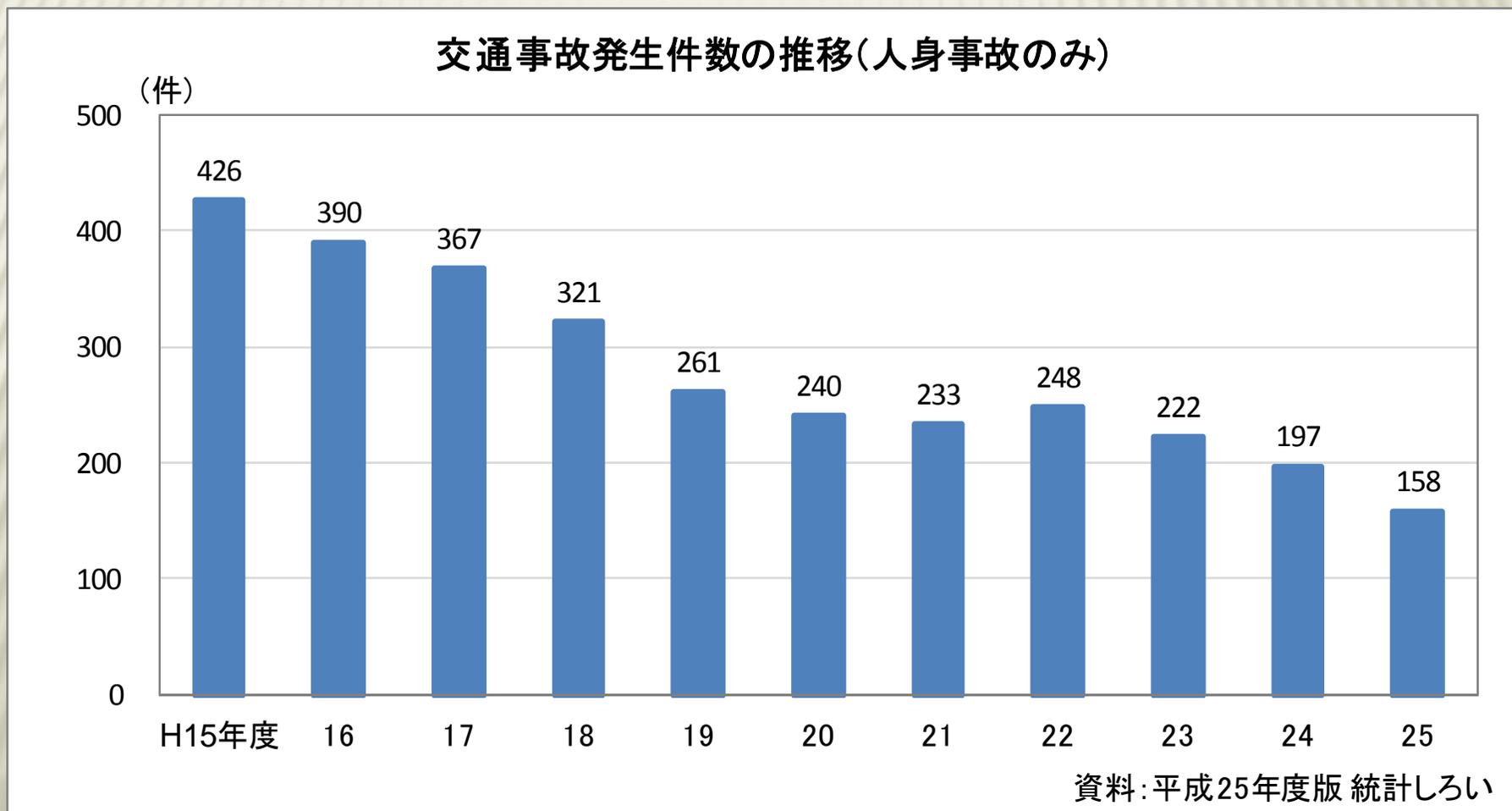
10 コミュニティ (2) ボランティア等

- ボランティア団体や市民活動推進センター登録団体数は、増加傾向にあったが、近年では横ばい傾向。



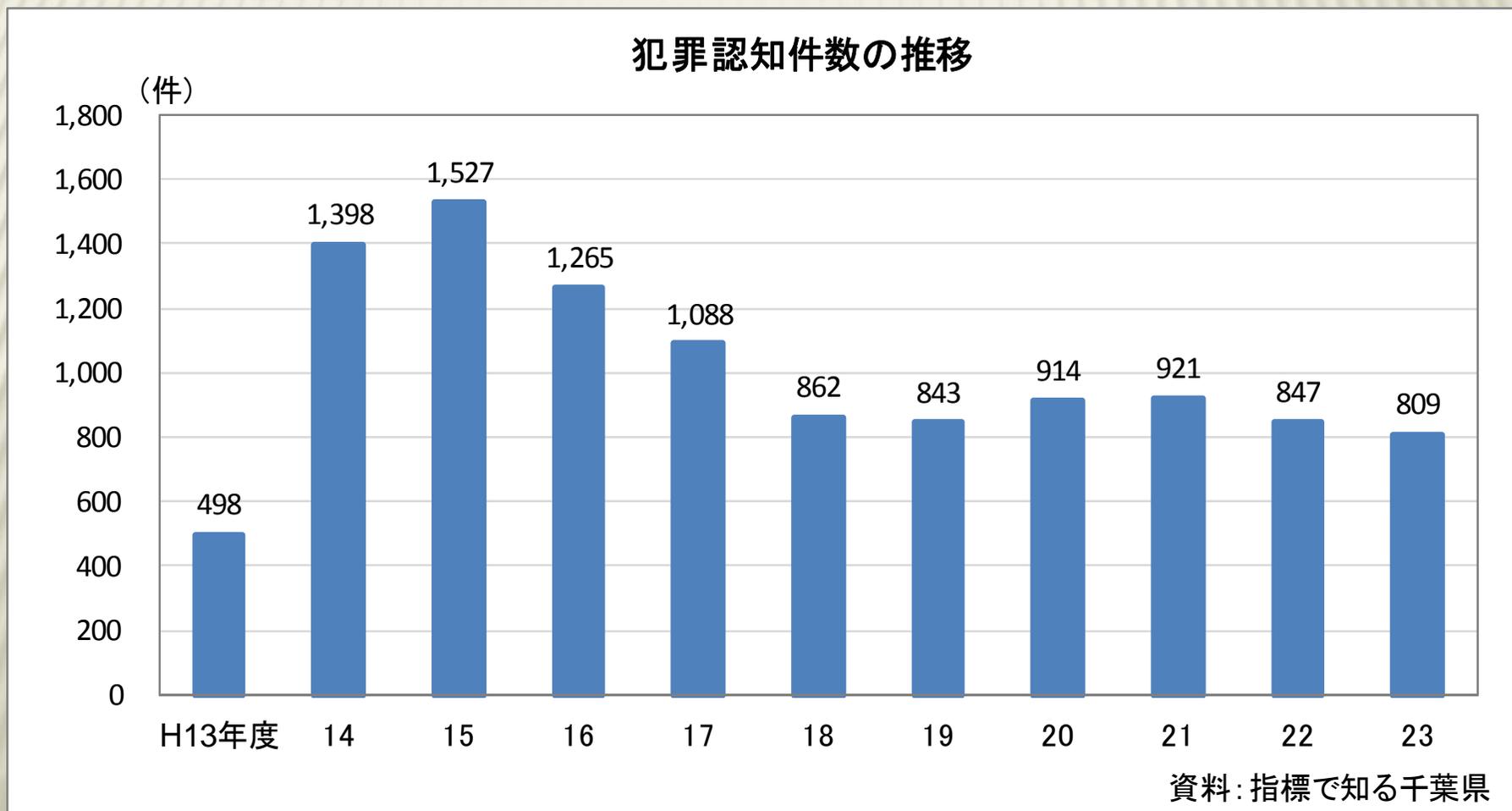
11 安全・安心 (1) 交通事故

- 交通事故（人身事故のみ）は、年々減少する傾向にあり、10年前と比較すると60%以上減少。



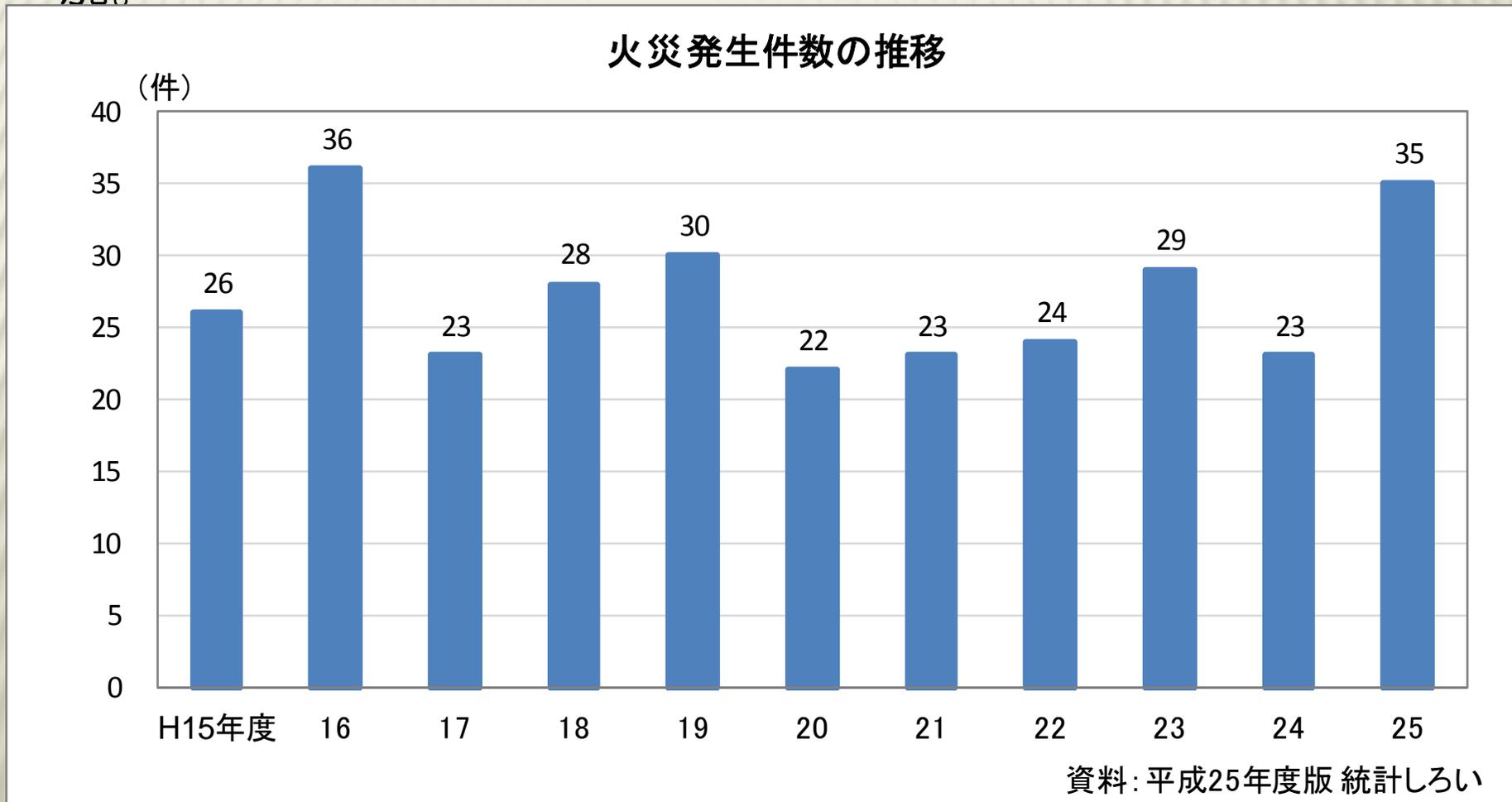
11 安全・安心 (2) 犯罪

- 犯罪認知件数は、平成15年の約1500件からは減少しているが、近年では800～900件程度で横ばい傾向。



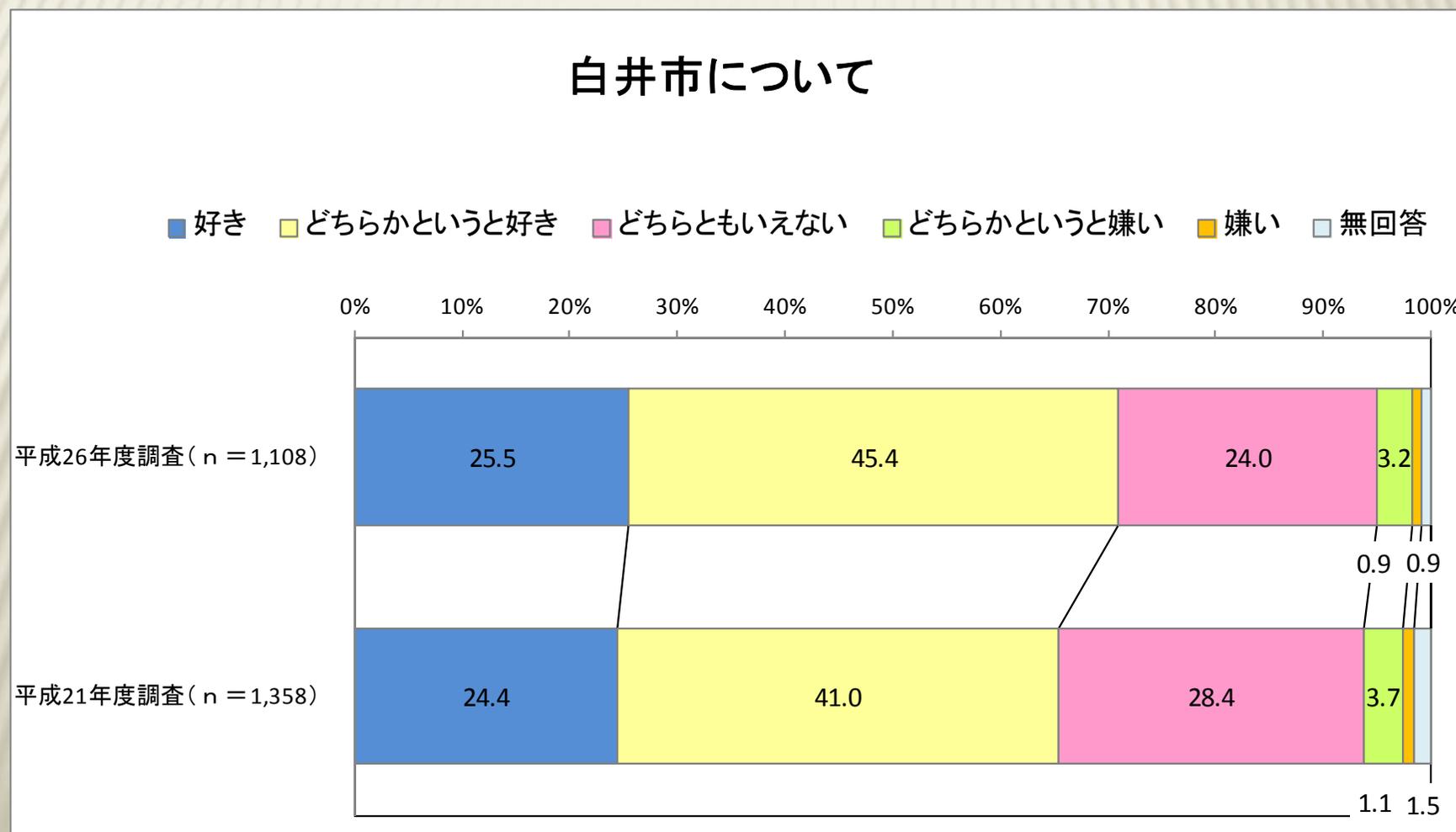
11 安全・安心 (3) 火災

- 火災は、毎年20～30件程度発生しており、平成24年度は前年より6件減少したが、平成25年度は35件と12件増加。



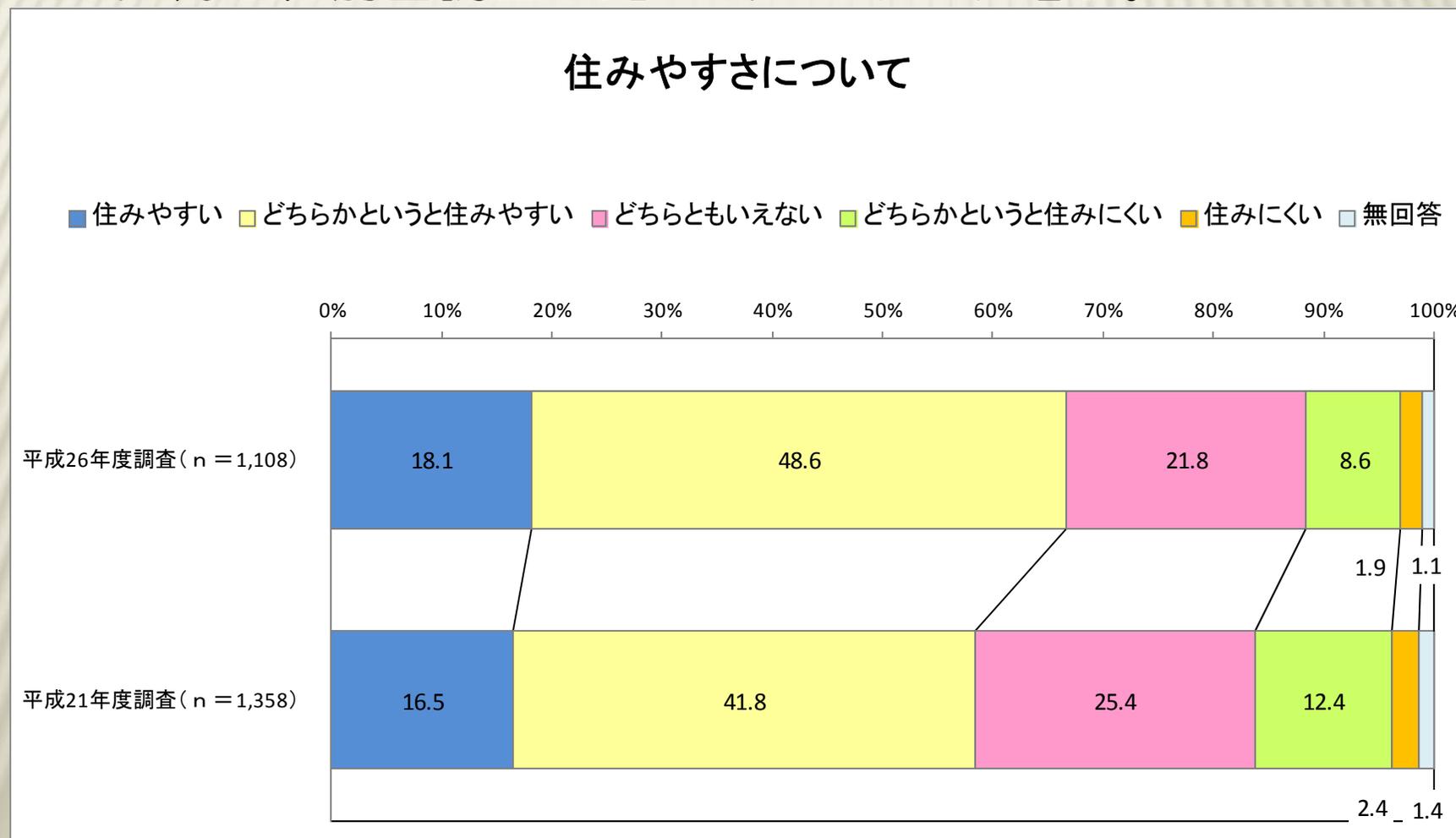
12 住民意識調査 (1) 白井市への愛着

- 「好き」(25.5%)と「どちらかというが好き」(45.4%)を合わせた〈市に好感を持っている人〉は70.9%と、前回調査に比べ5.5ポイント増加。



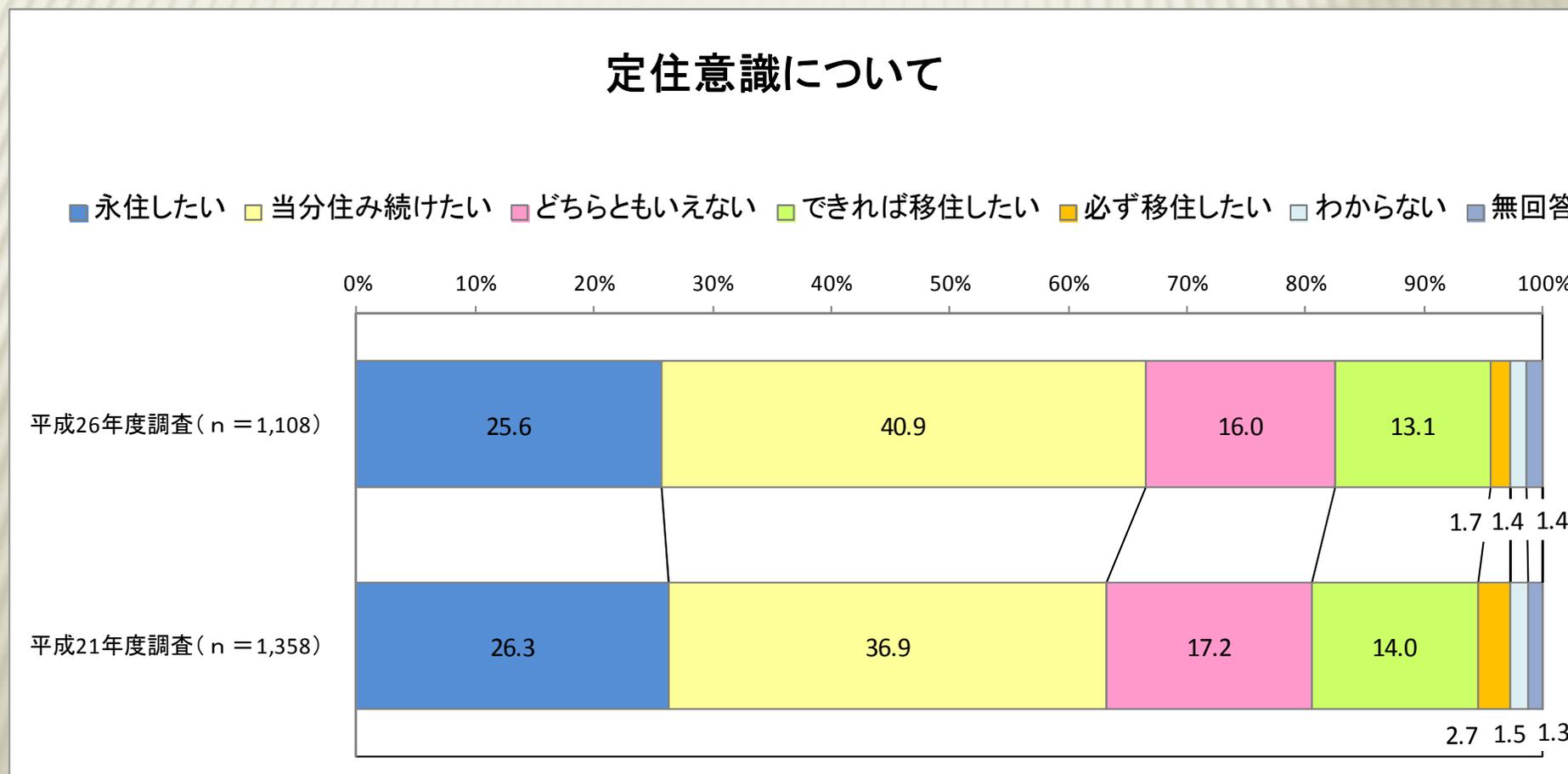
12 住民意識調査結果速報版（2）住みやすさについて

- 「住みやすい」（18.1%）と「どちらかというに住みやすい」（48.6%）を合わせた〈住みやすさを感じている人〉は66.7%と、前回調査に比べ8.4ポイント増加。



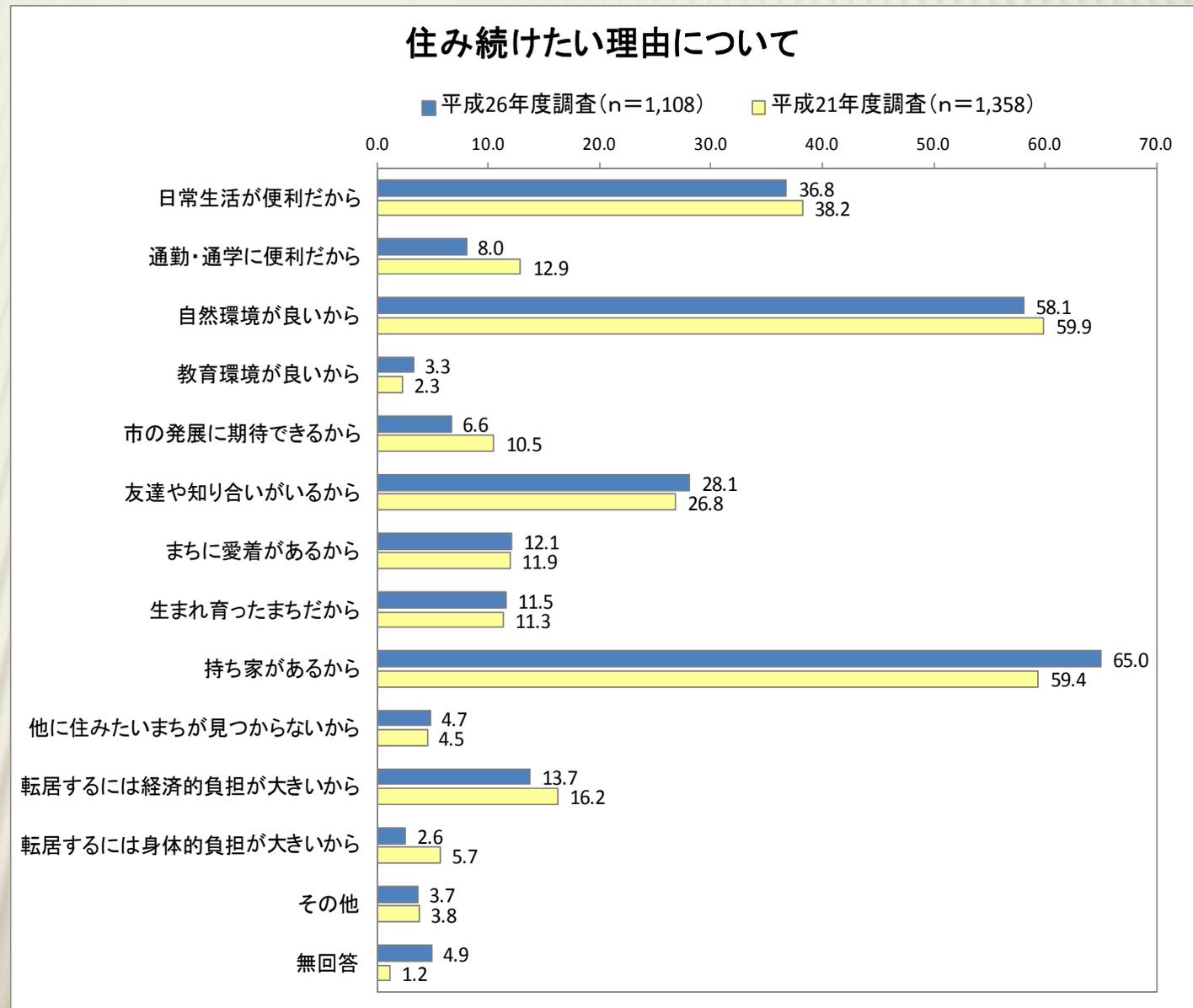
12 住民意識調査結果速報版（3）定住意識について

- 「永住したい」（25.6%）と「当分住み続けたい」（40.9%）を合わせた〈定住を意識している人〉は66.5%と、前回調査に比べ3.3ポイント増加。



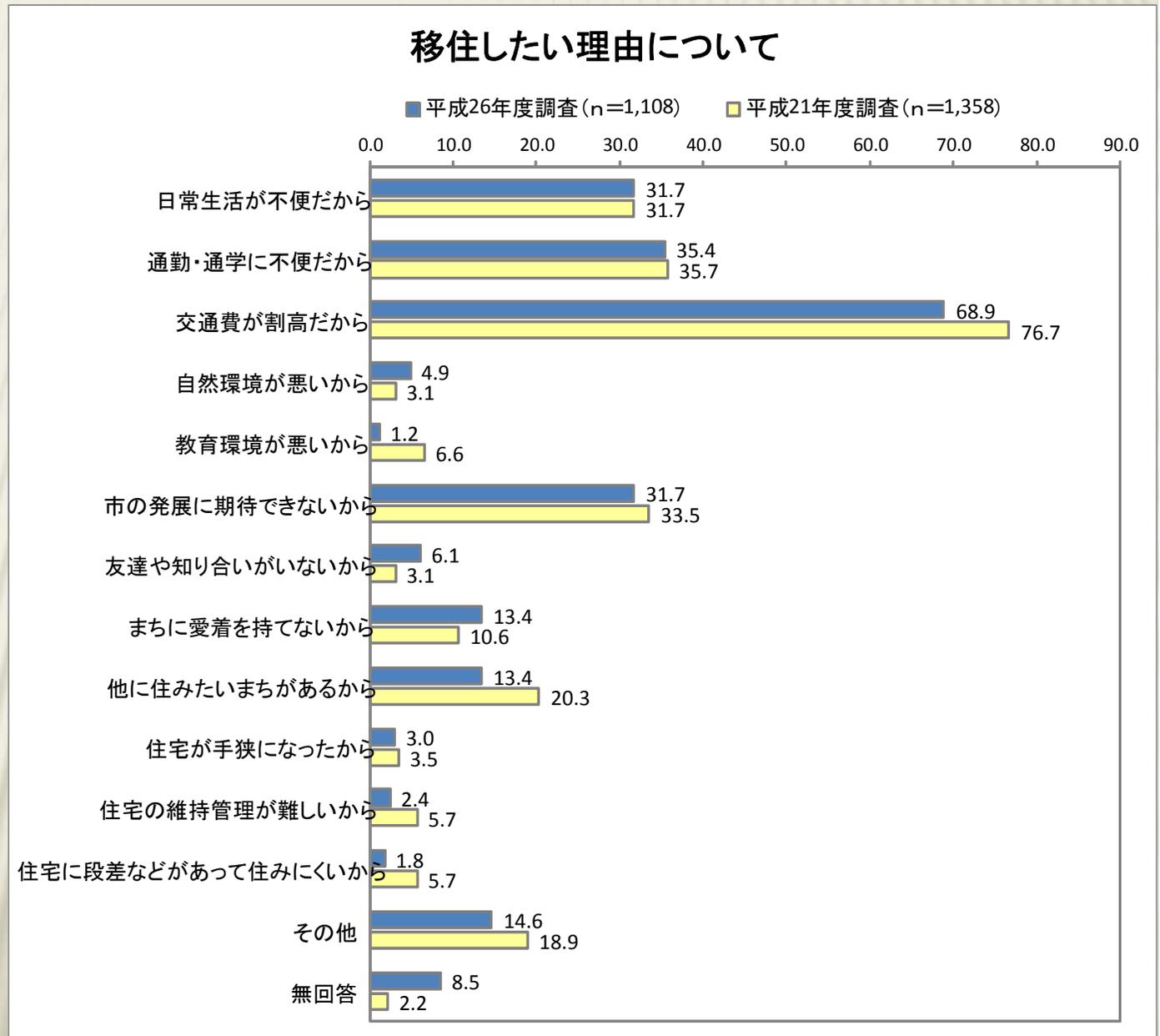
12 住民意識調査結果速報版（3－1）住み続けたい理由

- 住み続けたい理由は、「持ち家があるから」(65.0%)、「自然環境が良いから」(58.1%)が多い。
- 特に「持ち家があるから」は前回調査より5.6ポイント増加。



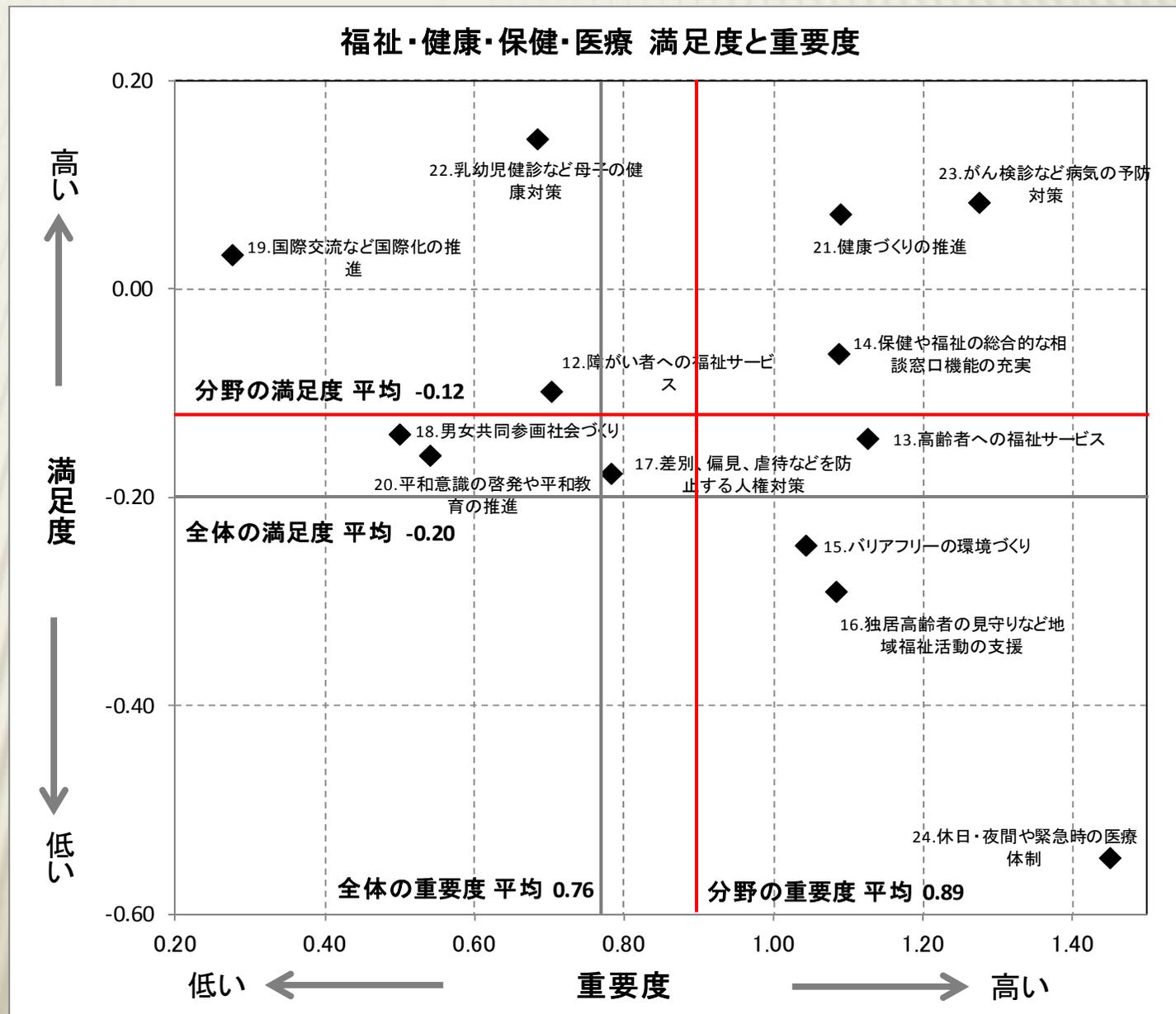
12 住民意識調査結果速報版（3-2）移住したい理由

- 移住したい理由は、「交通費が割高だから」(68.9%)、「通勤・通学に不便だから」(35.4%)が多い。
- 「交通費が割高だから」は前回調査に比べ7.8ポイント減少。



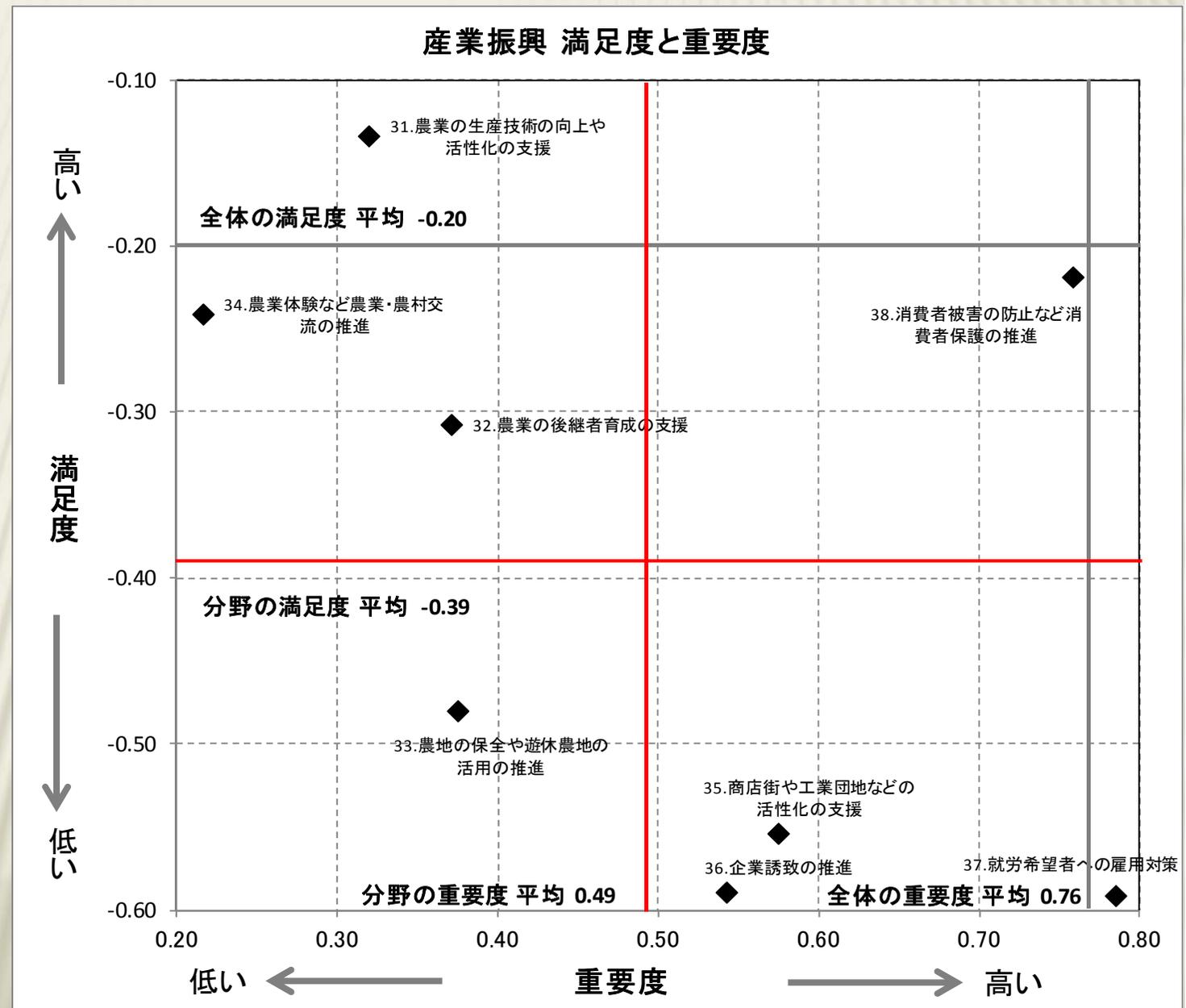
12 住民意識調査結果速報版（4）取組別の満足度と重要度①

- 分野平均は全体に比べ、満足度が高く、重要度も高い。
- 個別の施策でみると、特に「24. 休日・夜間や緊急時の医療体制」の満足度が低く、重要度が高い。



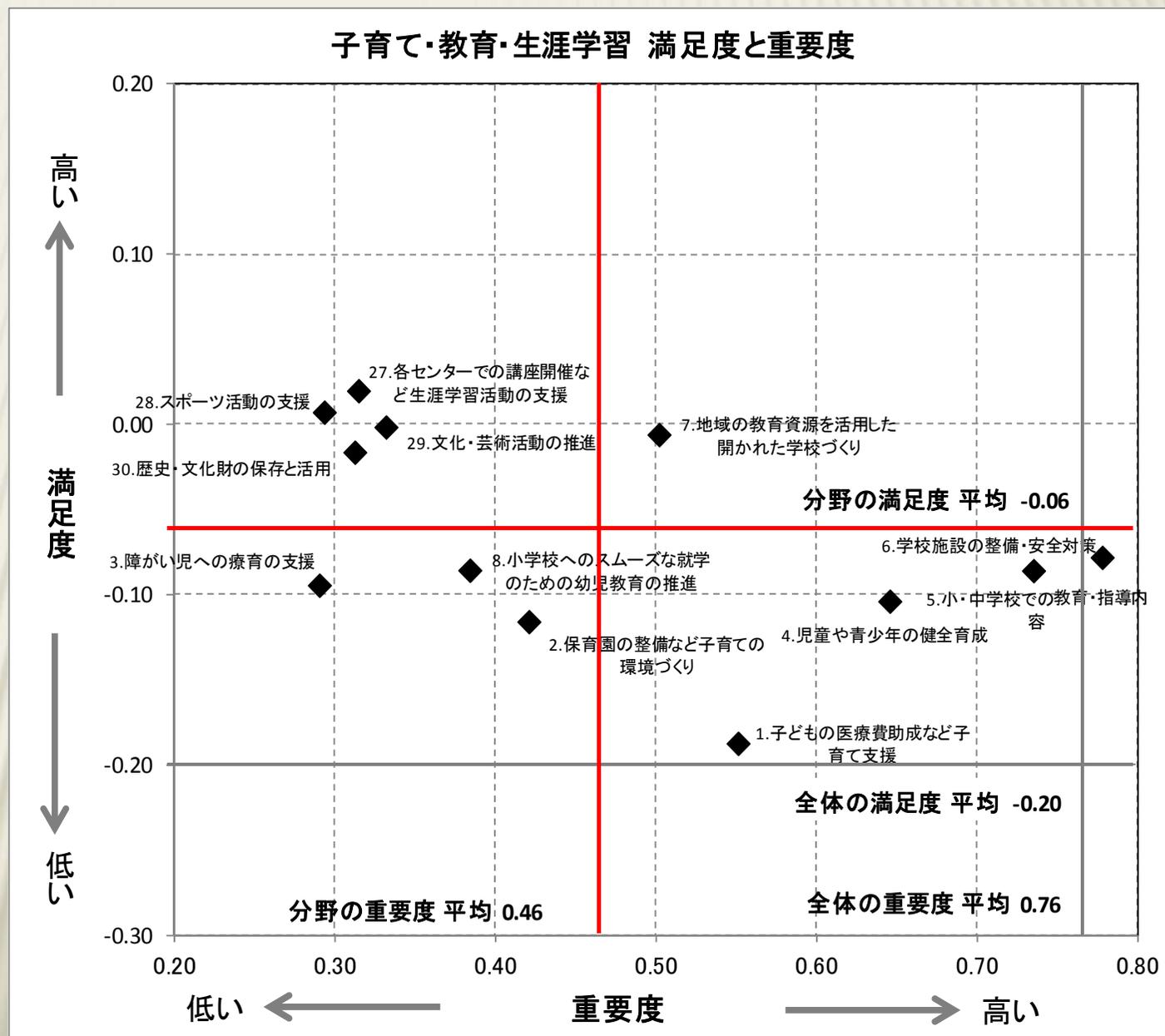
12 住民意識調査結果速報版（4）取組別の満足度と重要度②

- 分野平均は全体に比べ、満足度が低く、重要度も低い。
- 個別の施策で見ると、特に「37. 就労希望者への雇用対策」の満足度が低く、重要度が高い。



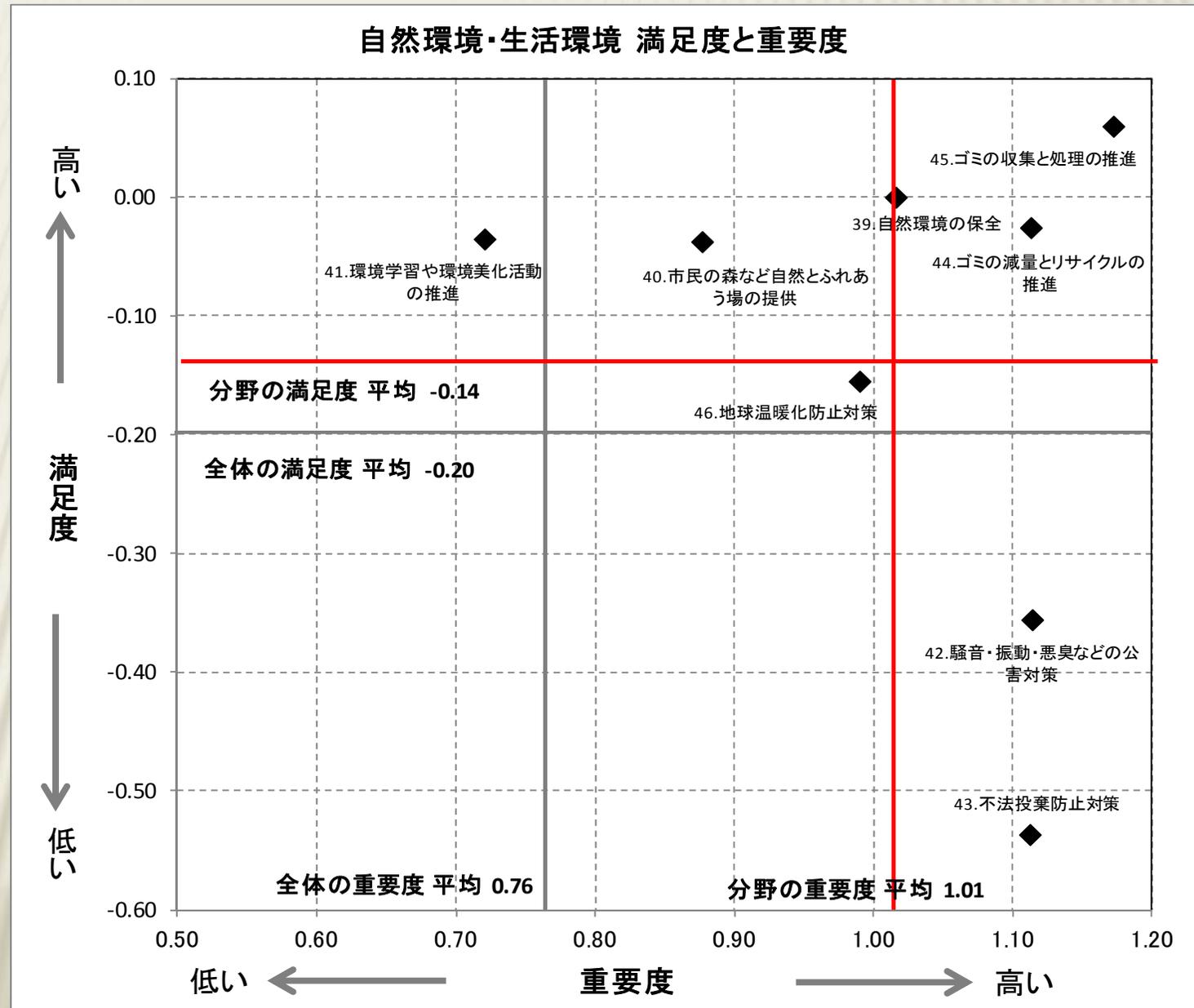
12 住民意識調査結果速報版（4）取組別の満足度と重要度③

- 分野平均は全体に比べ、満足度が高く、重要度が低い。
- 個別の施策で見ると、特に「1.子供の医療費助成など子育て支援」の満足度が低い。



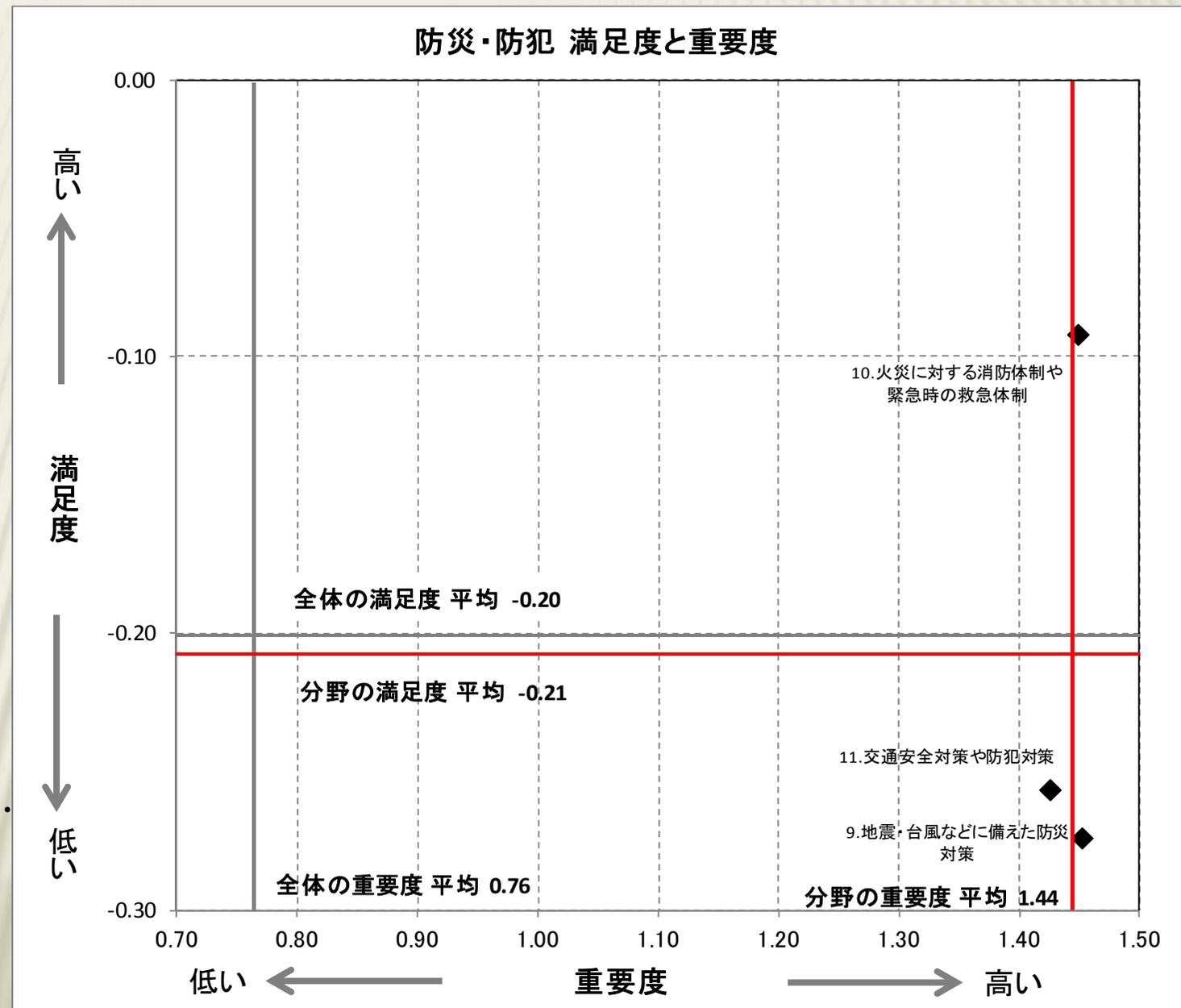
12 住民意識調査結果速報版（4）取組別の満足度と重要度④

- 分野平均は全体に比べ、満足度が高く、重要度も高い。
- 個別の施策で見ると、特に「43. 不法投棄防止対策」の満足度が低く、重要度が高い。



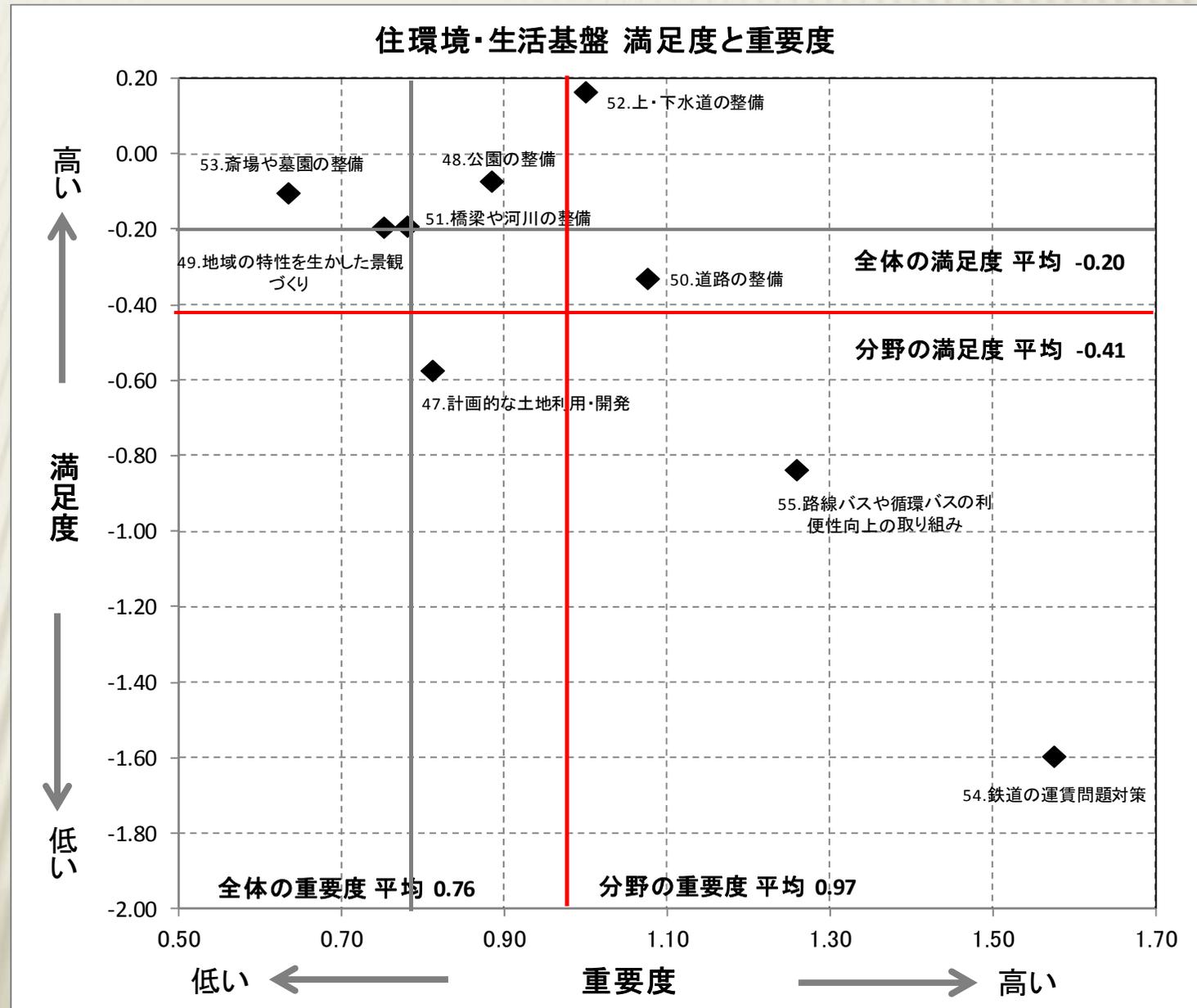
12 住民意識調査結果速報版（4）取組別の満足度と重要度⑤

- 分野平均は全体に比べ、満足度は同程度で、重要度が高い。
- 個別の施策で見ると、特に「9.地震・台風などに備えた防災対策」、「11.交通安全対策や防犯対策」の満足度が低い。



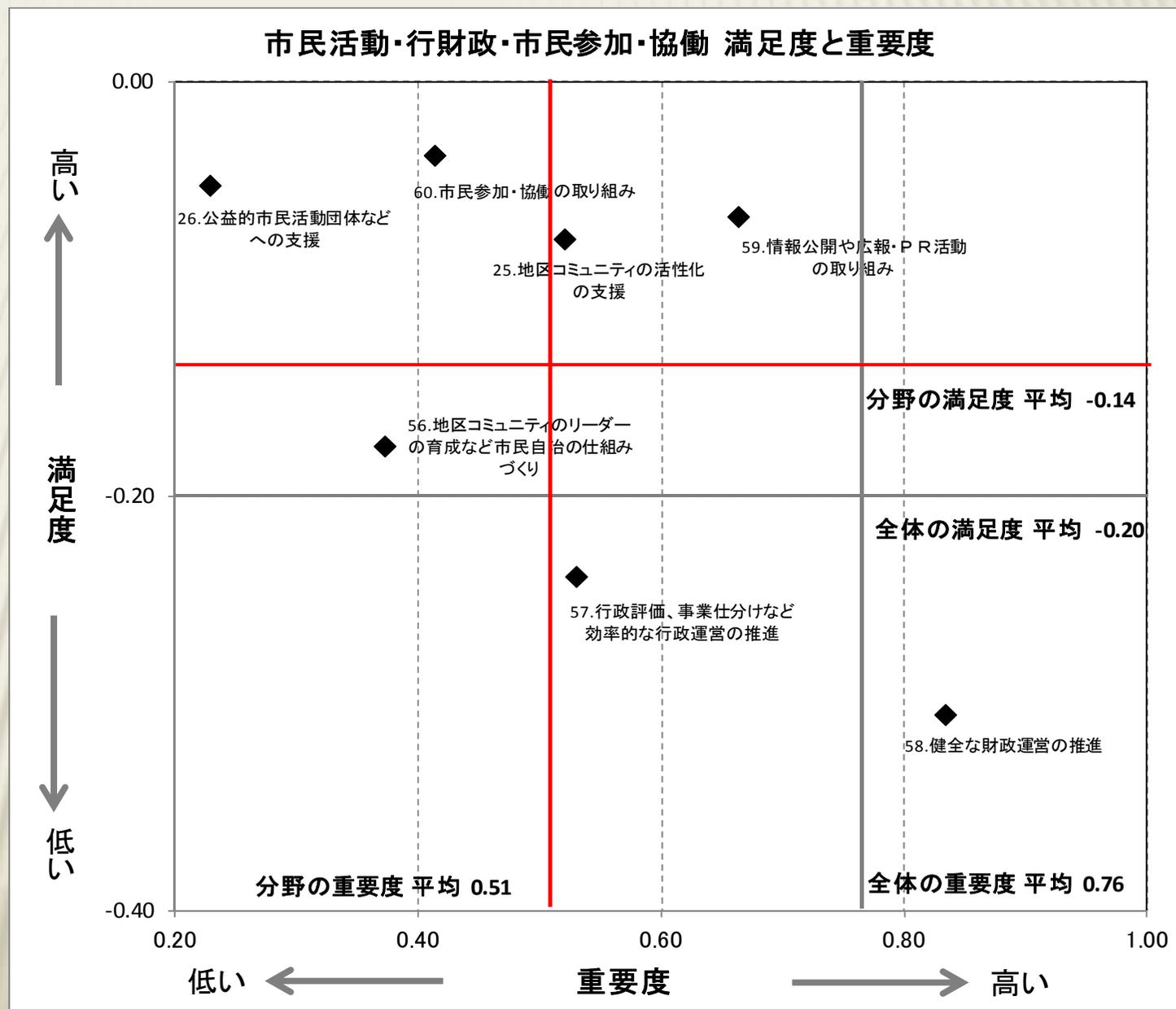
12 住民意識調査結果速報版（４）取組別の満足度と重要度⑥

- 分野平均は全体に比べ、満足度が低く、重要度が高い。
- 個別の施策でみると、特に「54. 鉄道の運賃問題対策」の満足度が低く、重要度が高い。



12 住民意識調査結果速報版（4）取組別の満足度と重要度⑦

- 分野平均は全体に比べ、満足度が高く、重要度が低い。
- 個別の施策で見ると、特に「58.健全な財政運営の推進」の満足度が低く、重要度が高い。



ワークショップ

～ 10年後の白井市の望ましい
将来像を描こう ～

グループごとの将来像テーマ

- ①元気で暮らせるまち（健康・医療・福祉）
- ②産業や経済が元気なまち（農・商・工業）
- ③子どもが元気に育つまち（子育て）
- ④環境を大切にするまち（環境）
- ⑤人と文化を育むまち（教育・生涯学習）
- ⑥安全で快適に暮らせるまち（都市・防災・防犯）

グループ討議(意見交換)の進め方

1. グループ討議は、テーマごとにグループに分かれて行います。
ご自分の関心のあるテーマのグループに着席してください。
2. 各グループのテーマに沿って「10年後の白井市の将来像(こんなまちになるといいな)」について意見を出し合しましょう。
3. 将来像は「～なまち」という表現で、たくさん出し合しましょう。
例)子どもたちが元気に遊んでいるまち、住宅地にも緑が多いまち
4. ご意見はお手もとの付箋に書き込み、模造紙に貼り出してください。
※注意 付箋に書かれていない意見は記録として残りません。
5. 1枚の付箋には1つの将来像(「～なまち」)をご記入ください。
6. 各グループの進行役は、集まった市民の方々から選んでください。
7. グループ討議の終了後、各グループ討議の結果を発表(3分)し、全体で共有します。発表者も市民の方々から選んでください。

各グループ討議のとりまとめ(イメージ)

■各グループ討議(意見交換)で出し合ったご意見を模造紙にとりまとめる際の参考にしてください。

模造紙

元気で暮らせるまちグループ 参加者名……、……、……

付箋

健康・医療

福祉

高齢者が地域
で活発に活動す
るまち

できるだけ介護
が必要にならな
いまち

地域で声を掛け合
い、支え合うまち

地域医療が充
実したまち

.....
.....
.....

高齢者、障害者が
住み慣れた地域
で暮らせるまち

健康づくりのイ
ベントが多いま
ち

.....
.....

障がい者が社会
参加・就労できる
まち

.....
.....

.....
.....

.....
.....

意見交換での注意事項

1. 限られた時間の中で全員が発言できるように、発言は手短かに。
2. 他の参加者の発言をよく聴き、自分の考えを広げましょう。
3. 参加者の意見の成否や優劣を決める場ではありません。
4. お互いを勇気づけ、発言しやすい雰囲気をつくりましょう。
5. 改善点ばかりでなく、良い点を生かすことも考えましょう。
6. 市職員もグループ討議に参加しますので、一緒に考えて意見を出し合いましょう(市への陳情や要望ではなく)。

※困ったことがあったら手をあげてください。スタッフがサポートします。